

57X
27
60

源氏同案

中 よう

やまと

卷之三

三



源氏物語卷第三

目次中

一うちすくにも内門の復^{コトニゴト}行^{ハシ}復^モモ^{カタニ}代^ヒす^ク記^シかや
一うちすく 河^{ヨリヨリ}妻^メ
一うちせば 不^フ能^モ不^フ善^サす^クせば^ヒ云^ウセ^シ
一うちえうとひにき^スも^スも^スす^クよ^スよ^スこ^スや
そ^スと^ス内^ノ室^ニ寝^マる^スゆ^キす^クゆ^キす^ク一^キ宿^モ也^シ
一うち^モす^ク蓬^モの^モけ^テ生^ミれ^スれ^シ云^ウセ^シ
一うち^モす^ク寝^モや^うて 懐^モ毛^レて^シ人の^モね^モう^シぐ^テて^レ元^モも^レ
と^シや
一うち^モす^ク夜^モ遊^シ也^シ清^モ涼^モ爽^モ
まわり四方^モま^レす^ク南^モ大^モ喜^ブ一^モ向^モう^シ



一世人より人の文字をかへてうし。渡支多院の内諱
せにまゝせへ思ひうむや

更衣はゆきうる心や。又有つて。ほこゆうどや。又続

一うちひ。うちひひや

一トす。使や。縁へんの度々
もつづり

一うちつれの山のうちじゆ

是のうちひき女の心をうてのきぐらやうれぬうへとしや
一うちあひ不適や

一うちあひ心

わくめへのやうにとせ

一セのうちひとて。縫ぬ縫ぬの

あひくられ。はともや

一うちあひ。ゆきうる心や

うちうち蘿生又活

一うちうとうと。やのそれまを見

里

一うちうとうと。うちうとうと云や。うちうとうとえりま

一うちひのゆ。どもうとうと。深底十六尺。息を丈三丈

一うちあひれ。あひや

一うちべきのよの東のよ。や。んへ

みがちや。としや

一うちうとうと。過。色かり。うす心

一うちれれ。うちれ。うちれ。うちれ。うちれ。うちれ。うちれ

出家うれ。ば。まきとえ。出。の。や

一うちうとうせ。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

一せうとう。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

の。夏。うとう。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

一うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

の。夏。うとう。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

一うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

の。夏。うとう。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

一うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

の。夏。うとう。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち。うち

と。生。在。へ。ゆ。づ。あ。ま。も。や。一。せ。の。内。ど。せ。の。う。う。ひ。や。恐。お

の字と万葉の用

惠心僧都号横川僧都

源氏左連の史アシガキべー。歴古よりのハヌの手ハンドでもあらへ
まや。宇治の參スルまつり。一うち波ハシは酒サケにて用を
うち衣アヒるれば、翁カミとすら也。一うち三ミツをもあらへすけうそ
事ハシはつ作ハサウべー。内ナカハ、亦のゆげへの爲人の事也。廷尉作
刑ハラタクの下れ。ちくよもうち。一うちひづさん玉の史記曰、
尚タチ有徑タチニテえ殊タタキ駕車ハジゴ。前後各十土業サナクラ楚主スイニシ臣陪ノヤ侯ノタケ蛇病ヤマリヤケ愈ハタハタる
ヨリにせすの玉と食て夜まで恩を報ハタハタ。陪ノヤ侯ノタケ玉
と清ハタハタて楚主スイニシ歎ハタハタ。夜中ハタハタ有光明故名ハタハタ夜光王
一世ハタハタ。終ハタハタる。明入道アマテ瑞夢ズイムとぞとすつゝり。

星

一うちめより枕カミあるす。すと夢ハシて泣す。老女ハシのけらハシるを
一うちめより尋良房ヨレヲのゆくの御ハシて。うば馬ハシを行
す。後代ハシて例ハシもらふ。うろハシをけ海晏ハシ。良房ハシム乃時ハシの
事ハシも見ハシ。すくやきハシ。かうしてざくべー
一うちめより枕カミあるす。うば馬ハシのゆくの御ハシて。紀伊國ハシひろの郡ハシ。神
タハシのうねぬごりよ者ハシ。ゆの漢ハシのうつよ。西入町ハシの内ハシ。紫
瓈ハシ。車築馬ハシ。のゆくまハシ。もくらハシ。云ハシまたと。伐木ハシて。金銀瑠ハシ
渾ハシのよハヌのけ。西の渾ハシのよハ秋ハシの林ハシ。がよハ松ハシの林ハシ。四面と
えくわくハシて。うつと云ハシ。げ変ハシと摸ハシす。元ハシ

一よ何の僧が中立ハシの山ハシからも

まよめハシとぞくづれハシ。

源氏左連ハシの史アシガキべー。歴古よりのハヌの手ハンドでもあらへ
まや。宇治の參スルまつり。一うち波ハシは酒サケにて用を

まや。宇治の參スルまつり。一うち波ハシは酒サケにて用を

うち衣アヒるれば、翁カミとすら也。一うち三ミツをもあらへすけうそ

事ハシはつ作ハサウべー。内ナカハ、亦のゆげへの爲人の事也。廷尉作

刑ハラタクの下れ。ちくよもうち。一うちひづさん玉の史記曰、

尚タチ有徑タチニテえ殊タタキ駕車ハジゴ。前後各十土業サナクラ楚主スイニシ臣陪ノヤ侯ノタケ蛇病ヤマリヤケ愈ハタハタる

ヨリにせすの玉と食て夜まで恩を報ハタハタ。陪ノヤ侯ノタケ玉

と清ハタハタて楚主スイニシ歎ハタハタ。夜中ハタハタ有光明故名ハタハタ夜光王

一世ハタハタ。終ハタハタる。明入道アマテ瑞夢ズイムとぞとすつゝり。

一 あくびく弄のじうじう心や

一 うとうひもども玉ぐるめ

三

便へゆき

執政へ罕笑的古坂河の葉のまうちらふ四十笑九茶の家

えても葉平揚をのそと詠

一 ほれづれの朱雀院の葉笑

とくまつよりやしれすよす院とちぐまく名也

一 せきわれせくられじよすやねうト蓮のむくわのくの心也

而くま野老とくらつれじよすやねうト蓮のむくわのくの心也

一 まくらすこくと信すハ小鳩女すもどこのじよくえも

れん涼まへえ夜多不頃玩げ心よ

一 まくらの山陰のまびとよひてすがりあひて 女のれまんさ

れん涼まへえ夜多不頃玩げ心よ

一 まくらの山陰のまびとよひてすがりあひて 女のれまんさ

四四二

四四四

ア・友の用さへずのまひと四方よくやされどもれも

木くや

一 まくらとそく 葉落水暗葉

一 まくらとそく 楠本葉枝

一 せきはよへ重う雲とくへまのせとひみゆまとの雲

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

えんこれ唱

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

一 まくらの山の煙とおと云や・おもよげ詞あり

求四處上半下東便天海壁蓬壺見室高仙山多禮閣西
廊下洞ア東齋門署曰王妃太真院長恨哥傳
多

一ももぞれもれもれもれもれもれもれもれもれも

た

一玉のちのこみす 玉ハやめうけや 玉の徳とひひくらう

一たゆげ うきやせ

一たへぐに 雅堪

一たへ 遠く人月

一うちゆ まぐろハ方士也 幻術士名也 玉のあらみえ

更衣の鬼のまくわせつゆ

一大派川池の名也 芙蓉ハ蓮の名也 未央ハ芙蓉の名也

大派川池の名也 芙蓉ハ蓮の名也 未央ハ芙蓉の名也

くぬうへら

一大本子の場所 榆中より麻子石

目十

ももれとすそくは脂をゆせよ是ハ軒にまつり供ひやがま代ハ脂も

一たいくちよ 退く後

竹人をふくよじや 挑戦開白とも 帝のれとよもん

人との絆や 親主のふ限くらハ歟うり名也

一たづぎ 簡

一たづぎて けいほ人の家どうどとすべたもくへくら

一立田坂ミイムシモ そのあらじどよよ深かくくくも

もくへてりや

一セタのよもよもくうゆづく

一たのくろ 敬や

一たゞへくくくへくくや

一ハ助波也

一たゞれ 訪便

一たゞん人 お別すくへくくや

一たうぐ 鼻紙や

タヌ

一たもひーれ縁やまくモ

一たそれ誰ぞどうぞよほどヨクシテ然と云也

一たゆきすともまわや、ゑじハ由引や

ヨリダ

一勝口あつゝのすれ 禁中にて勝口の宿屋ヤ大人武家

ブキトヨ

トノイ

トノイ

トノイ

トノイ

得ゆや

エヤ

物うち

ルニヤ系ふる

一代の國司一二任四年して國司うちりて父毛利に必ず

リテテラ

ラクシ

ラクシ

一代の國司一二任四年して國司うちりて父毛利に必ず
ソリヤその父毛利と共に家ノツヒアムシんとソダゾケハス

第十八

一大納のじすめ堂の出母や

モウ

一大納のじすめ堂の出母や

とまつらもめぞ。まのアズアレバさりべまにもあめなこえや

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

一大の字とそくすり

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

地下的人、庭との役や

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

堂今來大鼓ハ必堂下にて打ひや。寛治八年五月廿五

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

日、鼓上競馬六番の時、主上自打大鼓給ひ時置堂上や

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

一大さん不 禁中にて、女房邊のわづかや

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

一大あら、姉娘、花仙家

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

先弟上儒者奉仕作獻題次書韵字盛中院置庭中文

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

モウ

隆獻之次王卿堪屬文者文人各進文其臺頭探二字
見之奏官性名及所探字也今案探韵ハ各一文字詩也
志韵字つゝや故懷紙端作云春日同賊春夜観月花

各分二字應製詩

詠得

其字づめに書へよ

一大将の志 大将は素儀もと無相まで氣す鐵也源氏ハ被付
參議大将也宰相也大將例藤原房前冬嗣ス常行一条院故
一大将の志もれまくら爲參議二人の内一人をもあつて花
一大将の志もれまくら爲參議二人の内一人をもあつて花
小妻もとせじりも又空のえのうちもふされそらや
一だけしれハ強うれはきや 一大将もとすらり 探影及葉
漏道寺叢教與 横壁邊

一大将もとすらり

一大将不運

告

スシツラ

カイ

タチ

タツ

タマ

タシ

元鳥女院若ハ位よつまひて院は故のよ小一条院うどとハ本
上天皇のそゝ事とハアシテす。但封テ年官年齢うども差
異もうちそればうづくよもとハアシテ也。封とハ封テうち。三之を
各子八百戸うと。上天皇うちへて。二子戸内ウリカセ也。
院句ハ安院がんじゆけきうら判官代主典代うどや三官ハ本
多タコゴダ。皇太子皇太后文。

一たとの鷦^{カク}と明石上内候也。一たのトウ類聚。山^{イニ}よ
ひーううまでもくえ。民河原^{タヒシ}ノハラ。一玉^{タヒシ}ノハラ
ひと云^{タヒシ}。河原ハ纏^{タヒシ}。一玉^{タヒシ}ノハラ。やぐて所論^{タヒシ}人どもや。
ちうん。贊言。道祖神も此説あれ。心^{タヒシ}くしてぬじ放^{タヒシ}べ
一落^{タヒシ}こぼりうるくも。皆^{タヒシ}身をうつくしむそもれば

の^{タヒシ}びよもそ。塔の壁と云ふらて焼^{タヒシ}くうとから。
丁^{タヒシ}うばううわきとあり。河^{タヒシ}頬、叔^{タヒシ}みづと云。花^{タヒシ}うの甲油^{タヒシ}
油^{タヒシ}流^{タヒシ}。丁^{タヒシ}うばうや。弄^{タヒシ}畢^{タヒシ}。うきうき女^{タヒシ}のうめべー
一竹^{タヒシ}う。袖^{タヒシ}や。梅^{タヒシ}金^{タヒシ}方^{タヒシ}や。一游^{タヒシ}後^{タヒシ}。大^{タヒシ}衣^{タヒシ}寺^{タヒシ}よとらしぬと
や。貞觀十八年二月廿五日。ハ^{サカ}瀧^{タヒシ}院^{タヒシ}為^{タヒシ}大^{タヒシ}寺^{タヒシ}。棲^{タヒシ}露^{タヒシ}寺^{タヒシ}に^{タヒシ}
御^{タヒシ}候^{タヒシ}。あり

と云。一洗^{タヒシ}玉^{タヒシ}手^{タヒシ}袍^{タヒシ}。玉^{タヒシ}と^{タヒシ}うつてううや。女^{タヒシ}うけ^{タヒシ}すと云。
一大^{タヒシ}ぐのうら西^{タヒシ}參^{タヒシ}大^{タヒシ}良^{タヒシ}相^{タヒシ}。ハ^{タヒシ}院^{タヒシ}左^{タヒシ}大^{タヒシ}。夜^{タヒシ}祭^{タヒシ}。嗣^{タヒシ}公
の^{タヒシ}。大臣^{タヒシ}の息^{タヒシ}太^{タヒシ}の^{タヒシ}を^{タヒシ}想^{タヒシ}。び^{タヒシ}の^{タヒシ}也^{タヒシ}。

一大^{タヒシ}將^{タヒシ}内^{タヒシ}大^{タヒシ}に^{タヒシ}うちりかひて。内^{タヒシ}大臣^{タヒシ}執^{タヒシ}政^{タヒシ}。御^{タヒシ}河^{タヒシ}昌^{タヒシ}。忠^{タヒシ}義^{タヒシ}。天
祐^{タヒシ}三十^{タヒシ}月^{タヒシ}大^{タヒシ}七^{タヒシ}日^{タヒシ}内^{タヒシ}覽^{タヒシ}。同^{タヒシ}十一^{タヒシ}月^{タヒシ}廿^{タヒシ}日^{タヒシ}略^{タヒシ}。御^{タヒシ}わ^{タヒシ}く^{タヒシ}。

一辰の日の書つて、リす。十一月丑日トより始若連ニ至る日ハ

トの丑也。以上の丑ノ日有例ル。丑日ハ章歎矣入宣ヨモミ
節の心ニ外、日ハ童女也。辰日ハ、又節の後ノ節會の日也。

食の日の書つて、とある。不審也。豊明節會ハ、同中乃辰
也。若バ節のわハ才氣也。其のもとへをさる。

たゞ、どりのうもうす。内治辛ノ官辛ノ爵也。

一大事のあその日、進士注曰。可進受爵祿者也。聖武天皇
神龜年、始進士試。帝王系圖、進士及才氣也。下向弄一勘
秀才よりかハづれも、進士也。必一もわすらのやう
ねば云付侍う也。

一大事のさん河太宰府貢、
附權太宰小武太監人小監人太典太小令史等あり。小武、
叙爵也。

目中大

時、少卿也。鹽叙爵の時、大丈監也。監也。大監ハ、六位下。小監
従六位。大監ハ、正六位下相。官也。されど、従五位下。叙
られし。大丈の監也。稱もうちも。

一大事の大越者觀書のよも

一大事の墮元文記

とらざれど、ころたりき。そ際矣也。

一大事のり出づるや。長恨。じすばはくらぶ。恨。音

きうく。とこい。すくへて、とこめの咽のゆどとくもくらや。

一大事のらうさん。六日、武德競騎射也。行繙の事也。

唐人の狼もて馬。さて、撃てばくじりと行性云。其勝
參す。多良行繙。余云。納穎利也。六日の競馬の口。雅也。
竇是と參も。勝負の能声。必競馬する。也。

たゞくよ。クドのまゝれもゝや。倒や。ゆれう心や
一ノてあとくやす也。一とらやも。今、まゝる
ゆりうに本経くや。クドく、ころや
一だくね、こくひ。き後してわす。ひうて陽心うども
一やんのくくし。ひく。組くもひゆう
一トヤメの、媚女。雲わもうぐへにえのまきしんこや
一太上天皇。あすみ。漢高祖のえを去り。至天皇。うす
経りとおもへれ。日本。よも例へ。くもす
一だつまく。平字や。ぬつ。うきとも
一たいもや。うすくへて。中まの太饗。うすくも
とく。ひがの。かがるを。後さの。を。花鳥。正月。二日。二丈

大饗事。西文記云。大納戸。白大御。二糾。中納戸。内侍。一糾。參
代。大御。一糾。非參。流。四位。御色。小御。八位。細長。一連。三略
一だくね。経。肌。済。一だくね。眼。又。媚
一だけ。うちひど。を。せつぞく。も。内侍。す。一宮人。や
一これ。又。心。ほ。う。れ。伝。の。作。代。と。う。り。す。と。傳。氏。そ。し
経。緒。心。ほ。う。れ。伝。の。作。代。と。う。り。す。と。傳。氏。そ。し
一だくね。の。あ。と。ん。い。あ。う。が。れ。寺。と。傳。傳。袋。事。す。平。文。時。ア
あ。う。じ。と。う。れ。す。の。が。う。て。と。く。べ。一
一ぶく。大曲也。
一立。う。ひ。て。心。は。我。も。う。ひ。ぶ
所。と。火。う。べ。う。き。也。一だくね。か。蜀。也。

一にまうとうさんごん 提婆及保新及葉瓶 隨時奉教予教
こきら紙あてる人の役にて、み奉日がひよりまく、け道を

一にまうろ 摘葉汲水猪影設食 王時奉事經於子歲

子歲終りの者、は力うぐ久くれどや、子供もくじもそ
も後れをも

一にまゆべきとくわへ身もく
けすか、二ハ佛入藏うれだ、常在灵鷲山の心もうち到成生も

見延せ恒は妙典、老うる里とへ別て、さてもううへ

一

玉の源の魂

このことくんじや

一行川の竹河の曲とうひとくせ、うごめくのうみ
あら、何事にゆくをふくくつてとあるゆくあら

一

行河

このことくんじや

コトヌラ、まよはねんと早下るや

哥孟年

カホ

一にまうと、烹出家ゆべ、家とくしんこむかひとくも

一

行河

このことくんじや

一大國記

寺アガ浦重

このことくんじや

すらと參づること

一にまうと、大國記

このことくんじや

帝新ハ人うとく天や、帝天ハ物利天の

このことくんじや

一 楠の後の事より心してうへまくらじとす。

内よりひきりや

一 桃にて猿にてうらも

久心のうらうらめへと後は変定われこあり

一 行づらづらと備のさうざ紙和琴うらにてりうら

一 玉のうす 玉も佑

一 たちもく親もくとを

折返する地とても活也 一たまうれ演教見華札記式
演へ宿きうへと金也 残多と寝生一う事うや。

字のう、羅波のう、まあひきうて、わとのうひくわむ

づきれ 一たの行もくら各うあり家

のう、うよせ

しきれ

第ニ

一 わうううては伏のううううや

一 れいのうううき どりてんうき心やれいも例也

一 れいのううう月日か一のひら 令曰陰陽寮頭一人

掌天支曆數風雲氣色謂天文者日月五星八宿也

曆數者計日月之度數而造曆授時也。氣色者風

雲氣色也言以立雲之色視其吉色候十二風氣知

其候解應和二年七月廿日黑雲氣廣三丈許起坤

且艮康和二年正月立日白雲廣三丈許經天旦東

西

察試在鳥試ノは史記とすうじせり也。うくうううう人を

攬文章生補と次の句よ大字察ふを心もく及外の人を

文章得業生す補す是と進士もより或は前そ勅詔とす

あて試らるるを文章生す補してのちに方略の宣令と並て課

はとびうりと云々暨

一わく 練やわんごうのふ

一れいのそんそんとまわやあまきゆあうれば併とづら

一れいのそんそんとまわやあまきゆあうれば併とづら

一れいわく 陵玉樂や

一れいをもせむ毎月八日中堂

そや

一うねく精

一うのく うう所すや

一うのくのへやひをせうじおうじみことせよとま

往仙客

横陳

一うひく 懸形や

日

え船の舟もそひづる女事する

一うひく 足下花人をうづくめや

一うも 駕や 一うれきれくやいづれを

一うひく 廉附や 一うじれ 宵や

一うひく 倒付や、ちくのゆすとて、縱うと横こ
あくとまうとと云せ 一うれきれくやいづれを

一ねう者うちくと云ふや、因縁と云や

一うにはうき、うもちくと云や、ちくはまくとく行や
うもあうと云ふや、うもりと云せや

一うのうれしきあれらや 一うじきやを尼^{タチ}りま
一さやせ底^{スミ}をじく内^{ナカ}一 一うもろこはくも

一うの人^{ヒト}にこれもももあへうる

一えどもの声 鷹^{タカ}八月十八夜^{ハチ}て宿^{スル}や

一うよきれよすと云宿^{リヤウ}や 一うや 初^{ヨリ}夜^ヤ

一うかみん^{カミン}誇^{カミ}や ほせられ上^{アシテ}も

一うや ううじつ宿^{スル}や 源^{スル}の出^{ハシ}みや

一袖^{アオキ}くみ えしもね^{エシモネ}を出^{ハシ}されや ひととあく^{アカル}を

一うかみん^{カミン}誇^{カミ}や ううじつ宿^{スル}や

一袖^{アオキ}ゆき えしもね^{エシモネ}を袖^{アオキ}とゆすきのゆ^ヒとくよだう^{タク}を

一うかみん^{カミン}誇^{カミ}や ううじつ宿^{スル}や

源^{スル}の心^ハう立ち^タせや

一うの心^ハの、ハ^ハとゆづべ^シと傳^シ者^{ハシタ}の達^{タマ}者^{ハシタ}の心^ハや

一袖^{アオキ}くみ えしもね^{エシモネ}を袖^{アオキ}とゆすきのゆ^ヒとくよだう^{タク}を

源中はゆりうらゆ。れ思ニヤスの武力とみへゆ也。

一袖の上の玉のくびけクビケとくもん 来勵カミタマ

一えれきよろこびれヨロコビるを。まかげマカゲくとも。えちれエチレくとも
くそくを。びきビキを 一うちれウチレせりそこ 不武フブを。ゆ

こゑや

一うへす。復す。うやく

うやく。環アラタス。傍エヌス。杖ハシ。自歎ミタス。俄ガモ。頃シテ。風定シテ。雲墨コトブキ。色シナ。社詩

桂嶺瘴カイリョウ。東雲ヒマツヌ。洞庭春ドウテイ。冬水ドウス。如笑シノハタシ。柳子厚詩

一うひきて。ゆきやうすす。えん。偕ハシ。そびく。じよく。と云。行

筋

一うこそ。それこそ。や

つむ。ゆきや。さけ。う。つまは。まく。し。ごく。や

一うへす。寛平クンヒン。送誠ソウジン。今頃クモダラク。申。令貢チカラ。二人。往

日主

北其キタク。必ず。令來ヨミキ。眞マサニ。ひかる。先ハシメ。あれ。ごとく。べ。翁セイ。まつもト
こち。うよ。ト。峰カミ

じやく

一アホの。夢カミ。が。詮ノ。湯ノ。六衛ノ。の。し

け。以下シテ。と。つ。べ。一。裝キタフク。何ハナ。三ミ。令ヨリ。主シテ。御シテ。司シテ。正シテ。人シテ。掌シテ。御シテ。學シテ

大シテ。予シテ。夢シテ。ハ。仁德ニンテク。天皇シテ。う。か。ア。よ。高シテ。驕シテ。と。い。ゆ。わ。ゆ。の。ゆ。知シテ

云シテ。一。ア。う。ヨ。れ。ひ。つ。ま。一。お。け

義和シハ。う。り。ナ。明。天。皇。待。後タリカヘ。必。能ヒタチ。の。あ。不。傳。男ヒタチ。と。云。制シテ

傳シテ。後タリカヘ。二。方

う。う。て。こ。あ。う。能。而。大。良。の。ゆ。雲。井。序。の。ゆ。く。う。き。人。小。城。治

う。う。心。と。く。う

者。こ。え。す。う。う。う。別。て。心。悔。て。二。院。唐。鈴。法。爵。齒。の。二。の。門。一

う。う。さ。ば。う。者。こ。く。う

一。う。う。く。れ。る。の。う。と。外。典。を。さ。や

一ノれもじこゆる

樂書曰。昨丈之變易寒暑。添登之感。

勲風雷。謂琴裏也。琴書云。而曉音之樂宮也。工於琴。

神易寒暑。古風雨爲晉平去。鼓之感玄鶴下。舞。

一ノこじくうらむす

そこのじこくうらむす

一ノレづ。雨の漏りや

一ノれもくらむ。弄木鉢云。

五三位。徑陞與翁。檢察使兼行。不遊湯。大將。葛原輕服。深足。

承平六年七月十四日薨。四十七。男八條。大侍。時年二十。男半

朝鳳坐。元始。徐忠。物語。時代。う。それと。がまて。どまて。

ちて。をらく。もむれす。まと。う。せ中。よ。さり。つ。う。い。び。人

とぬ。じ。う。

一ノう。とあゆ。じ。う。

葉。花。物。え。院。の。み。の。花。幕。送。の。夜。が。車。に。き。よ。院。あ。ゆ。く。下。

四三一

セ。キ。ア。リ。ヘ。ヨ。コ。ア。ケ。レ。テ。体。氏。も。み。り。歩。ル

一ノれ。ハ。え。の。夏。暖。て。書。出。放。幼。少。の。時。も。と。あ。く。ま。ら

一ノく。ひ。く。る。高。坡。山。谷。う。ど。と。う。く。も。鑿。の。傍。生。家。の。傍

う。く。待。す。も。作。わ。ち

ヒ。て。秋。見。こ。う。み。く。ら。狼。う。と。ハ。狼。う。と。う。も。魚。入。水。出。り。ぶ

一ノ根。う。ぐ。う。の。う。石。也。一ノれ。も。ら。人。ト。ぬ。セ。内。反。

有。う。れ。ば。葉。の。う。つ。り。ぎ。と。す。一。ノ。く。ら。

一ノ。よ。ア。く。ら。ア。賄。財。財。通。送。る。や。け。約。ハ。礼。物。と。出。し。て

官。位。よ。の。け。か。い。や。一ノれ。や。も。く。も。も。す。れ。り。や

一ノワ。れ。い。の。く。班。女。園。中。私。扇。楚。建。主。臺。上。私。琴。声。

班女シラタチの後アフタはすとられしら古事記・竹陵タケリハ不知ノシト・下シもとけり
やおほ心ハコハ心ハコハとられしるこや・白扇シロキアフキこわう扇ハラハラもそひーりきや
一イチくよふ鳥トリの 可怜病カレンビヨウ姫半舟ヒメハナツボ驚ハラハラ入スル萬媚マニミ鶴トリ三更唱ミヤウ曉アサヒ
桂仙客ケンセンカ

一袖ソウわれ

首ヒの入スルゆ

うめいのややすきうこわねじくばくうち

一イチくよい座シテもそく坐スルや

一イチくろ坐スルすくろくらり

づれも内ナリ心ハコハや

一イチくろ座スルすくろくらり

うひくハ族シテや
云ハシル儀シラサガ不セラサガや・慈毅シラサガ共毅シラサガと侍スルをゆり大瓶毅シラサガのまちシラサガべ

一イチくよく坐スルすくろくらり

天運テイクニの

一イチくよく坐スルすくろくらり

一イチくひくハきく比ヒ人の坐スルのちりハやううと云フ

一イチくひくハきく 痕シテきゲきミを

一イチくよくハきく 雅シズ四シズ

一イチくよくハきく 集ツ舉ム記ギ

一イチくよくハきく 情シラフ清シラフ樂シラフの東シラフの庭シラフ月面シラフの山シラフ花シラフ也シラフ

一イチくよくハきく 徒ト伐サヤ

一イチくよくハきく 游シテくシテの罣シテ也シテ

一イチくよくハきく 游シテ辛シテ苦シテ不シテ艱シテ舟シテ文選シテ

一イチくよくハきく 宮シテ位シテ也シテ

一イチくよくハきく 女シテ馬シテスシテ也シテ

れぬをうみんとぞひそぎとのりひそて、うちけぬ清也

一つもうらうふつアモウフセ、うみてハ苗とゆこくすうせ

一づれもくはく うわくへのまご、鳥をくへてづくせづれもく

さうももくねた、ひひのをくあくさくゆよ、中待トシテセ

んみて、くわくわせ

一つもく

風情

一つもくうれ 寂セ

一つもく

早朝の。セ

一つもくまわ 先打 手まわよ、をくそらまわはうせづくわ

一つもく

早朝

方後 ほぬ

一つもく

農

賣售 蔡経

見延義式

一つもくもきわ 心のやいよどよ

一つもく

市女笠

一つもく

心と下よくわ

うめくもくて、ゆめくもくとづくわ

早

一つもく

秋除日也、發京官、除日春、除日者。

号縣五

各詳書、書者、春者太政官、麻衣者、外記、麻衣者、
之仍稱官名、教隆寺、八月也、其ノムシノ、秋ノアサシ

そつひくわセ

丹子

月のとし

雲をとくとてえ葉

あるよなす、中家

家、トキ、多リ天よう、此品也、ば

世のやまと、是のとく

一つもくもくとく、天之

もく、もくとく、手もく、天之

もくとく、もくとく、手もく、天之

もくとく、もくとく、手もく、天之

もくとく、もくとく、手もく、天之

一つもくもくとく、安家、トキ、多リ天よう、此品也、ば

世のやまと、是のとく

一つもくもくとく、天之

もくとく、もくとく、手もく、天之

伏悲 荒れ

一月日ひひりとす。

若葉

巻上 明石入を夏よ／＼すあり
一つう／＼くわ 麽／＼きや中略行や俗よ／＼すあり

一つう／＼くわ 等ぢれ／＼きを等や職す／＼どへ研滅ノイシが
きり旅店等や 一つや／＼てのじ食家峰ヒタチマツ

擇地セキチミ東坡詩トウホするも

もう頃費クニヒ

一つえこれことどうへう行
甲斐う／＼ば根う／＼山う風ヒタチマツ各
ればう／＼うこつら 一つのりもんを常則ヒタチマツに書

工道風コウドウの能書ノウシ也

一つう／＼のうす不審の
あよ凡ヒナとせ。／＼うけ活ヒタチマツかのうす也

一つう／＼ととまのれあうす／＼るければ平源ヒタチマツを改大臣す
て節倅セナエす／＼のむはまづきとてもあ／＼うすなや
一つう／＼ぬみのう／＼放鴻ハラダの筆よ／＼傳す／＼人よ／＼商量す
ともう／＼ものや。そてゆすべあけやと／＼河放鴻試ヒロミコト變や
一つう／＼數カウす／＼くや 一つやもえも母つやまきかまきや
一つまきのやうよて花ハナめらへん城シヨウひきくとくほくをやとい
て叶ハタケえまたう／＼試ヒトコトとづきし急ハヤシこみや尋スル人のやう變ヒトコト、
言ヒトコトえていもんをや 一つやとくともくちこ心や
一つう／＼とく筆ハナめをや 一月日ひひりとす。あの方への文ヒトコト
ご。今日とくとくをや 一つのよらる様ヒトコトの筆ヒトコトくふろ
解ハナや

あはれうへとつゝももれてとつら

一つやくもよごせ

一つとも不送地シテ也

山裏仙洞セイリョウセンドウ

一つまうりすりまうせ

一つねうす不無初ハナキも

うすとまう

一つまうり彈タマレ指ハシも

一つあうり候ナシはスに惡ミヤガきんあうりとせ

一つまうり

候ナシはスに惡ミヤガきんあうりとせ

一蟲チムシもびき岸シマのれ鳥トリの心ハコの虫ムカシの声ヨメの葦アシの音ヨメと人ヒトの
つらタラの葦アシの音ヨメと人ヒトの心ハコの花ハナのあうり
えのきエノキの音ヨメと人ヒトの雲クモの音ヨメと人ヒトの運ハラタキ長笛ナガハシ賦フ云
蜂ハチ狼ヤマハシ蠻アブ同ツキ亥イハ音ヨメ狼ヤマハシ橫ヨメ云

のれとありますや

一月行ハシメハ

禁中キンヂ

禁中キンヂ小廄院コウジン

刀月毛ハサツれうれうハサツも流リュウの夜ヨメの秋ハサツうりうりうハサツこ早ハサツト樂ハサツ

一つまうり 猪シバ耳アリよとれり志シの深シハシ深シハシうゑん 猶忌ヨモイのほの衣イや

一つれハシくと虫ムカシの声ヨメの蝶トリやハシくく人のちハシくよくこうけハシうてハシせ

一つまうりのハシ一つれハシくと六茶院ロクザイエン絆ハシメのハシメれ

白シロ良ヨウ

一つれハシくと虫ムカシの名メイや虫ムカシの名メイや貪心タマハシと云ハシメ

一つれハシくと史シ記キ曰ハシメ李リ札ザク之シテ物モノ使ハシメ小過シヨク徐君シラカバ徐君シラカバ好ハシメ李リ札ザク

奴スル弗ハシメ敵シテ言ハシメ李リ札ザク心ハシメ知ハシメ為ハシメ使ハシメ上ハシメ國カタマリ東ハシメ獻ハシメ遷ハシメ至ハシメ徐シラカバ徐君シラカバ已死ハシメ哉ハシメ

是ハシメ乃解ハシメ其ハシメ實ハシメ猶ハシメ擊ハシメ徐君シラカバ家ハシメ樹ハシメ而ハシメ去ハシメ後ハシメ者ハシメ曰ハシメ徐君シラカバ已死ハシメ哉ハシメ誰ハシメ予ハシメ乎ハシメ季ハシメ札ザク曰ハシメ不ハシメ能ハシメ始ハシメ我ハシメ心ハシメ已ハシメ往ハシメ之ハシメ豈ハシメ以ハシメ死ハシメ倍ハシメ吾ハシメ心ハシメ乎ハシメ是ハシメ世ハシメ家ハシメ

一つまうり 猶ハシメ也

うのくも表どりよつじやこア人のきされば引手利三

一つまれへようすは 墓六持らればそのつまれへとも中持お持

あふお持よつて人をよびて詠ひそぞ

一つも山とは毎ひひきものあまのまよまればつゝも山と
そぞり

一つづくらばの夕月五 菊の

うば四月一日比とくみてやうても前の泊よ。七日比夕月五と

あち阿仙記すも。七日の月を一日比の夕月五とつら

一月よりれ八日 東門の縁日也

わ

一それ 二位三位よつる。后のつるやましに扇のひ方あると云伍歌。丁

一ねうけ 体へロモアシテムハ

筆主

一カタリヨ カモヒヤ。姫ガナマスドリ。じせ

一カタリ候るまし。中河。そのま

一カタリて 鼻のうらぬを廢や

一ねうね。ゆくわて。まねじもとせ。ちよけきづ。藤

かづとむけ一先。どづとのきり。まは寝て。くふこう

一カタリキ。まれも。う人や。一女別當。女家

森木よえうち。女家別當や。一勵。今れせへと院。家。開向家

ちよふぬの爲まで。一念佛衆。生撫。不捨。觀

無量壽經も

一ねうね。年三正五九月。六女日。天帝秋山月。

南引迦のよどみ地獄。一み日。元日子日や。十節記日。

正月子日登高遙望四方得陰陽靜止軌除憂懼之迷

一わくとく 律宣言 ウヂヒトヤエヌトヨ

一子日あらに 美の角日也正月のみれ日あ御多々

一わくとく わくとすひうそづら花猫字のまくうや

カウハム通すや 一女少后とわふやアマモテ

河外条子条后の素平段たよ通法一トうどんニシテ後撰

去トソテモテ後京極のあもあよけアケル元良のモトヨ

ヒヅル

モレリシモレモハのれ勝う続モベヘレタケラ

モロコシ一トモニモハセキノタフミテハジメシの前

モロモロ乗れちけアラハドモシナシヤサセモスル

トモ

主君やきみまふおももや 一りんぬき 万事家生皆

捨離専心姦頗向西方 一ねのれ餅 子ハ美の里取

あよ依て子のこの餅を惟先^{シツ}三日祝と子のモニテモス

一すよくとけ栗ややりうや或ハラクバツ日心れ波^{シテ}ハ
く繫字や

一チキ^{シキ} 平や

一内侍のすけ 典侍尚侍掌侍食奴うちま紀よ^{シツ}渡

一チラ人ひづべー 一チラ世人のすま郎のせん

櫛^{シキ}妃のすと云アガ士ハ既よそせよあひて^{シツ}いざ^{シツ}を

もてくち去家よせすう思ハクンギ^{シツ}くらうて^{シツ}衣^{シツ}を
食ぬ^{シツ}あひさればくの爲や 一中^{シツ}くうて^{シツ}云心や^{シツ}せ俗^{シツ}

云中ううてハモ

一キミタマノラ

家婿生花

ちまくへよニの心あり。稽アガふを云。女郎翁の哥の心也。又生の

名

など。ちまくへじえへもむらもまくへくこ、あらうす心也。

一チズヒミトス也

一チラミムれひりく筆

相ナツ遊ギ

一チタリ

手札

一チタクシモリヤクテ。ざくら一筋 長橋オカハシうは清涼殿セイリョウデン也。

紫表裏シシテへよシ廊ロハ也。ばくあよ東の庵アバよもぐく階カタハシ橋ハシあくば

橋ハシうりむつて。がくへ西カタハシて舞踏マジカル一タモヤ也。礼美也

一チタヒ、簾ナヨビや又やなうせ。一チタクレ。行ハシやわとれ浅カタハシ也。

今代人のんうちめ先ハシ。経略カタハシうらうるめくすれども。

三マムシニ吹ハシとつづり。並ハシく法華

チタムク花ハシタムク花ハシ。おれゆきの心ハシとちれ心

一チタマタんやうもんび。一チタモタんやうもんび。と

あくどうと云ふとき也

ペー。玉衣ハナや。さくね。底略ハナ。一チタマタんやうもん

みかきよちやうとみて。うそ。あくどう

一チタマタんやうもんび也

一チタマタんやうもんび也

一チタマタんやうもんび也

一チタマタんやうもんび也

一チタマタんやうもんび也

三、前す。まきうら。もくせんりつ。

ちよ。神うちうらわん。内裏うちと。方丈。殿のへりや。

うらわん。せれ。まわきうら。まや。二条院。太山。うらわん。

の方や。天一神と。中神。中央の神や。長神。五位也。

一中川のうち。今川。末松川也。

一ちげーのうち。庄屋。サキ。

一ちげー。もうくじ。われ。うなじ。うまき行也。

一ちくく。あくと。あくと。あくと。うれせ也。

一ちくく。わんうくよそ。ひぐみ。ねのよだ。うふさや。

一けふ。不かぬ。うづくら。一ちげー。うづくら。のけ

一けふ。うづくら。一ちげー。うづくら。のけ

巻六

てぶむけうきよせ。一ヶ後くまく。とれうを。

うほき。うじ。日心。

一ヶげーのうち。げひうげの。か

まけ。うれとうげや。うの心や。

一ヶりも。農や。つうれす。一ヶと。だうら。金剛藏王權

現。去。尺迦。現。立。觀音。當來。除。勸。除。出。世。の時。だ。る

も。く。令。と。ぬ。より。除。辭。や。一ヶよ。げーの。院。さんしや。

も。も。と。つ。ふ。四。や。河原院。の。よ。せ。

一ヶひ。う。花。ま。一。割。よ。内。壁。時の。う。と。養。え。そ。れ。の。ら。ぬ

ほ。の。う。と。す。ん。あり。石。渴。と。ふ。お。と。よ。の。お。せ。う。絶。だ。よ。が

う。お。と。と。あ。む。よ。せ。ば。ば。よ。傍。口。れ。の。お。ア。ス。に。を

一。南。安。の。と。よ。せ。總。云。貞。信。云。の。す。武。強。安。の。ね。條。と。貞。信。云。ど。を

まほすもの生うるよもて、お方をきてりまじ。勤使すらく
のえがまもれも

一そよもれぬゆのり つも

うれ心や

一そそき 大ふみよせ 等閑
念じよめとえ

一そくくも 弥勒のせとそそり

ほのいせふおはあいづれのせよに、むせのゆや

一むじの傍取 長恩保教、小山保教見葉花物語。

一まつてのむけ 富士よ射してつべ、波ちかく行とせ

一そそりよき人よちりゆた くわへせの心や

一そくううちりよきとくじ、けまつてと、ぬくとくさん

はのゆがつひよかとぞりもよかとほそぞく

れすゑばよきわうえりよひむりき心や

一そで一ふえよきとくねとをもそうに そそりこ
ハ金ぐれれすとくう初也、づり心や、べのひよべま
せ暮のうと月四や

一そくうきのすら 中古のす
らむよせ

一内教坊 昔ハ大内ニテ、あは

ふふくつら、今がこのゐと、ひよし、もひよし
神さすよすゑや

一そくうとどりよし、俗よし

こそのぢよでのやう、ペー一まほらううくうきううき
黒のううきとされば、後こううきううきううき

一チモトモウツノ
表裏同の濃也。先も旧例也。花上工

表裏同

年

年ヤ
花上工

レタス今やうをひきを以ふたとて。かうとて。今やうをひり
ら表同とうとソアヤ

一七日ハちりゑとて。白馬ひり

もりのとや。天武天皇十年正月七日。御尚サ五宴。

一チモトモウツノ
表裏同

追儺。十二月晦日。除夜。俳と追事也。鬼や

らひと云。追の字と。やくふじもじや。俳の字と。をよやくひとよ

じや。姑自禁中。追諸家。

一名。うさかひ。昔の名あるを

玉草。は。落花。秋鶯。通夫。名うねる。石草。うねる。

一肉えんちど。正二三月中。清涼庵にて文人をうて詩を

作。又講。セシム。すわら。至上。并。耽。病。赤。白。袍。と。着。と。保。充。

信。而。行。て。後。ハ。往。す。と。也。

日記共

一チモトモウツノ
十の絃を。中。用。守。れ。と。云。是ハ。一。ト。リ。セ。キ。
さ。と。底。ハ。九。十。延。中。の。絃。と。為。中。と。ほ。そ。と。云。や。妙。院。の。流。工。
二。ト。ち。定。す。ら。つ。す。底。や。中。の。と。バ。ち。じ。ゆ。き。す。ト。リ。や。太。方。中。
三。細。さ。と。一。心。得。秘。流。や。一。ナ。ス。く。く。が。ふ。と。く。や。内。侍。ミ。中。得。
う。と。中。底。ハ。う。ろ。と。底。ち。ア。そ。そ。考。セ。も。も。と。あ。わ。と。や。ク。と。
ハ。う。ろ。や。考。の。う。こ。と。も。う。り。仰。説。勾。や。

一南蛮の様のえん。南蛮。瑞。内。く。ん。も。が。花。囂。の。夏。先。例。多。
え。南。貨。ハ。紫。震。度。や。是。高。例。淺。藏。弘。仁。三。代。神。泉。亮。有。花。
寒。事。是。初。や。南。蛮。宗。富。例。村。上。康。保。二。三。代。南。蛮。孟。亮。
寫。云。時。探。韵。例。延。長。四。年。二。月。ホ。例。や。又。忘。寫。孟。亮。不。
う。創。天。曆。三。三。二。右。テ。地。下。舞。人。ぞ。う。う。テ。堂。上。の。舞。

らうるまき

一ナハアトコハナハアト

ミラリ

一ナウリ

ミルビ

ミルカ

ミルク

ミルク

ミルク

ミルク

じとひもすり。吉田ム侍。陰陽石。すりや。むこうの
哥を三役誦て。下ぐのつま。成。浩。ミエ。

一夜のあらゆ。半妻。眼。三月。涼。ハ。更衣。も。浴。半。び
きも。の。く。よ。や。う。り。ば。う。れ。浅。深。よ。う。べ。き。す。ち。
い。も。ご。う。訪。り。も。そ。い。夜。の。ひ。と。換。ド。う。よ。う。て。と。久
き。べ。一。特。服。の。緒。用。り。定。み。早。店。れ。喪。ト。市。堂。開
白。火。を。下。襲。と。ハ。着。ト。一。ゆ。す。り。と。と。と。と。と。
一。す。紙。面。風。や。す。花。周。成。主。の。時。周。去。且。東。船。入。旅。事。を
引。え。り。在。書。

一ナハアトコハナハアト

心。滑。ご。す。さ。ト。法。お。ま。方。業。哥。本。哥。そ。て。よ。り。ゆ。ぐ。ト
解。す。く。る。凡。一。内。大。民。よ。う。り。活。め。花。大。納。会
教。え。ま。う。て。正。よ。う。り。活。り。ん。而。ち。く。て。信。し。り。内。大。民。よ。う
活。く。く。か。ハ。信。大。納。会。て。内。大。民。と。う。け。く。る。や。さ。て。ま。や
ご。そ。活。政。え。り。ベ。正。定。あ。れ。じ。と。ま。す。と。け。ま。戻。ハ。久。じ。そ。致。仕
太。だ。と。う。り。活。や。弄。教。え。ふ。ま。う。て。一。助。教。じ。は。左。太。乃。大。民
の。す。や。依。寺。廟。古。木。の。か。」。内。大。民。の。官。を。さ。く。く。心。う。り
一。す。れ。と。う。り。ハ。門。伝。よ。わ。ま。で。申。れ。と。う。り。こ。つ。モ。タ
割。右。大。民。を。れ。ど。も。ま。大。政。大。民。と。も。成。タ。く。や
一。す。れ。と。う。り。ハ。門。伝。よ。わ。ま。で。申。れ。と。う。り。こ。つ。モ。タ
の。へ。衣。と。わ。う。そ。參。向。一。解。除。す。り。す。み。これ。され難

波のまゝ人の例や

一七浪

七浪のまゝ。今の大

大晦月をもとめ。壬午の七浪。壬午の七浪。ごろより在りて。京中

トあらハ法事。トモヤうつ心丸。狂笑矣。咲游。荒鳥。羅波。志

鈴原。はる。

一七日れゆも。うじ。い。寺。辛始。内

礼のす。や。或ハ七日うじ。キ。給人。と。み。べ。

奇あく。ト

一ケづて。せ。わ。く。れ。せ。ろ。れ。み。う。し。游。ても。男女。の。ま。

う。ち。を。か。と。ど。女。院。と。成。り。ば。今。も。ち。ひ。い。と。神。の。し。ま。先。宿。

も。ん。だ。れ。ゆ。や。

一チ。す。り。く。く。

風俗。略。高。と。る。

ま。や。う。ち。う。き。や。大。ま。れ。う。く。て。う。り。う。一。あ。も。の。あ。り。

う。一。所。と。と。か。き。そ。や。と。と。か。き。そ。二。所。あ。か。風。え。ん。と。そ。や。

う。そ。う。れ。三。所。或。ち。ま。と。考。弄。不。詳。也。御。ど。う。う。う。う。

一チ。す。り。く。ト。を。中。の。な。れ。障。あ。せ。

日。中。か。

一チ。す。り。く。う。ぐ。み。ゆ。う。わ。て。

日。中。か。

ベ。節。う。ぐ。直。衣。と。ゆ。う。く。う。

日。中。か。

モ。ユ。ハ。宇。洛。左。翁。記。妙。毛。院。御。園。ハ。要。夜。と。ゆ。う。わ。ず。で。

日。中。か。

キ。赤。内。と。や。六。位。禁。炎。瓦。云。こ。又。ゆ。う。わ。で。ハ。洋。の。ま。う。や。

日。中。か。

も。う。う。一。チ。す。り。く。う。ゆ。う。う。や。一。種。少。況。

日。中。か。

一。チ。す。り。く。の。ま。と。う。い。の。中。に。見。シ。み。や。

日。中。か。

一。チ。す。り。く。あ。や。柳。垂。氣。カ。枝。先。勤。池。有。波。文。冰。尽。用。

日。中。か。

一。チ。す。り。く。え。ほ。そ。う。う。や。こ。ハ。が。も。て。わ。梅。う。う。者。や。ば。

日。中。か。

の。若。モ。即。着。が。わ。れ。を。云。ア。

日。中。か。

一。チ。す。り。く。お。も。う。こ。れ。雪。れ。り。と。ひ。の。ひ。り。川。ウ。リ。ハ。

日。中。か。

一。チ。す。り。く。え。り。と。ひ。の。ひ。り。川。ウ。リ。ハ。

日。中。か。

若葉のえりあそびこの紫アヲシうらじう唐衣や。此ハ舊物朋良
と河海よつてお邊り。一チ休してあれともへあさ。

きみれ御や

一月の月あきらめどハ細えのう

ちと涼クセ一夕クセ秋クセ。秋の中もあくさけハ夜クセいふ四
のつま

一チ休て名は立や

一チ休て、長哥や。長哥短す

のす。家クセのゆゆ様クセよおし。此を三十一字の詩を短うと心うべ

一内侍クセのされまづへ

内侍の宮クセ。内侍クセの宮クセ。内侍クセの宮クセ。

一内侍クセの宮クセ。内侍クセの宮クセ。内侍クセの宮クセ。

は四事クセの宮クセ。霜月クセ。安官クセ。内侍クセの内クセ。内クセつづるや

一チ休て、紫クセ。紫クセの底クセを。巴クセ。とくもりゆへや

一チ休て、紫クセ。紫クセの底クセを。巴クセ。とくもりゆへや

一チ休て、紫クセ。紫クセの底クセを。巴クセ。とくもりゆへや

日中

一夕クセあそびや 中クセともくうつむかひて ふとく姿クセも

一夕クセあそびや 唯先クセよどくあてすひと云名も忘クセも

一夕クセあそびや まく水クセ。まく水クセ。

一夕クセあそびや 小クセ。小クセ。

一内親王 平クセ。同云。やとよ。就て室クセ及
ばきて。号すうや。一内親王。一チ休て。わづる。ふ隊クセ。度クセ。れれ。れれ。
隊クセ。號クセ。度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。
度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。
度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。度クセ。れれ。れれ。

一すくらむと源の心の手にまろのうを隠つて行の手をしてかれ
そうちらやうもくおよとねの波音よ心のうまれへへ

やううううや

一すいり 円教うり

一すくら 行滿代

一すんちぶらこどもひまと柏

まは御みやうのほくくきめせじもんせよ。まえふゆ

ゆくううれどひと泊せ

一すくらうん 名野面后家行船

まむれ 空府次船下貢近傍代官(装束内)行半と行家(兼中)か

ね者(主)うらち代官(主)後(主)王端名野面(主)司(主)徳清(主)曉弓

もる饗度(主)名(主)行船の時(主)

一すくくも 座(主)鷹(主)のまく

りをうづ

一すくらも 何くくまくくともやつまくお辭(主)辭(主)うづ

一すくらも 何くくまくくともやつまくお辭(主)辭(主)うづ

是

一中やうり 南方下向人(主)宿を中やうじられ

一すくらも うちら 史記曰孝惠帝崩(主)子后哭(主)不(主)下(主)后(主)未

一すくらの念仏(主)不(主)念仏(主)く

一すくらうけと 湿槃經(アシ)阿含經(アシ)說(アシ)圓(アシ)法(アシ)行(アシ)事(アシ)是(アシ)生滅

法生滅(主)已(主)滅(主)爲(主)雪山童子來法(主)未(主)飢(主)乞(主)金(主)乞(主)う

て法と(主)石(主)よ書(主)うら鬼(主)ハ帝(主)童子(主)ハ仄(主)也

一すくられ(主)月(主)山(主)坐(主)しよ(主)やうれ(主)まく(主)城(主)えり来

いもん(主)え(主)見(主)う(主)み(主)西(主)文(主)た(主)度(主)寶(主)物(主)降(主)樹(主)

詫(主)並(主)小(主)鬼(主)詫(主)詩(主)教(主)作(主)者(主)之(主)や(主)こ(主)盡(主)字(主)兼(主)請(主)醍(主)碧(主)授(主)祕(主)辛(主)曲(主)

小鬼(主)醒(主)鹿(主)鹿(主)美(主)武(主)大(主)天(主)也(主)校(主)一(主)すくら(主)地(主)と(主)也(主)也(主)縣(主)呂(主)或(主)ハ

未官の除月之後。觀音寺をア行也。或除月後、三月既
一朝も、ちと委除月奉公事。お食うとすが、並見らるるや
一もうじと、中びくられても、もあゆるを、乞うるうどん
一チモトとして、お官へは、一チモトの事、お代りが、かまう
つりふるひつるこころひきうえよめくと
一チモトからく三十ヶ日れ、船ト解也。
一中へけつて、太底四時心越苦。地中腸断是秋天。白文集
一チモトくねくね、かくわゆ。桂仙窟スミシヤクよ、かれ。ひきとみて、通
一チモト候教。横川直心院。源信僧教よ、ばせり
一チモトされえん。法義經ニ伝。之候後、起云々。

源氏日索卷第四

鼎生

一らうくびりて、とくまきあくとんせ。やくろく黙。かひくともくうせ
一らうくうう。方ううて、くもくう心ううと
一タカハク。うきうきうきうき
一らうのる廊下也。一られづ。羅表絨也
一らうくとう。良くさうくとせ。やくじよやくじよ
上らうきうき方よそれと。一らうとくられふ。繞廊紫藤架
支砌紅葉欄。白氏文集
一らうふかぐもうらしらんきうじて後
一らうれいのらんのまや。併名よ、じよと用。紫苑。白氏也
一らうん。螺鈿。つはすりてつげうや。併善見。いは是也

一らひりどり 東すうどつまゆや 墓子櫻子マツシロ とくにれとふ
うをくくもくろゆや 一らひりみゆ 肩下カクナ や

一らひげ 先駄センタ や

まくろきよまき

一らひろう 室幕シマツマ

じ

一もねあくま

しねのづまうをみや

一ひれくまよすくへて 文衣アヒ の在せんごく ほとづき
まわき

一ひりん朝ヒリヌ のみせきれをすれ 親生ハニセ ハ一ホトリ四ふとで

ハきよやふふよあくろとばあふいひづくす・妻ふとうへや・がま
しめ方ハタチ て就教シテイフ と外戚カイセイ と云・外縁カイエン の心ちり

單生

一ひそびつる 頭カモ と身カモ のとの壁カキ とくこまきはく元船カモ の時
のすくのえや・わやそひまのうすゞとほのむくらすとそ

男カミ のすくゆひ紫シタ の糸シタ とひづぶゆくら

一ひづれ そくつまきや・アヌ一じりよ 留リ 下シタ

一ひづれ ひづれまきや・親カミ 云

一ひのよ うづくヌバウの潤カク とあくよぬぐし

一ひづくまきや

一じさカモ えうきとれま

一ひづくまきや

蟲カブト 贪カモ 白シロ 氏

一ひづくまきや

一ひづくまきや

一ひづくまきや

一ひづくまきや

家カミ のぼる

ヨリテツカトモトマサルムニモ
一ヒノミシテソヘンノミニ 三情の件或ゆクハ清一とモ
ニ情の件ハ誰もうちれモヤ 一ヒノモト
一ヒノモトモアドニモ 宽平法皇御承院カヒラレ徒の時 転云
靈事リョウジて、ミタス思スルを及スルす。御下ミツ天子
ヨリモのゆへも清うきうとづく
一ひのア室の外 一ヒノモトモト
行女ヨウナ十人トメヒナて父母アメノとスルれて、スルれ、スルる事モノと
うと大にスルて、出ハシたモあまモ、声ヒきね清葉キヨハすもん
人ヒトぞよ
一ヒノモトモトモのモとスル黒ク
あくモモヒモ也モ。さればモとク也モ。あくモのモとスル
モモモ 一ヒノモトモトモのモとスル口ヒガ
モモモ 一ヒノモトモトモのモとスル口ヒガ
トモモモ 一ヒノモトモトモのモとスル山ヤマのモとスル
トモモモ 一ヒノモトモトモのモとスル水ミズや。去日アラシタて、ハまきの山ヤマ。餘社ヨシヤ
テハ、各オハも石イシとスル小コトハや。民俗モブツのモとスル事モノ。水ミズがモ、モ河カワ
モモ、モ花ハナよモ。民俗モブツのモとスル事モノ。水ミズのモとスル事モノ
の山ヤマのモとスル事モノ。ひめヒメ、ひらヒラあられ、まくマクひヒきキとスル事モノ。山ヤマのモとスル
ハハまマ出ハシ、ひめヒメ、ひらヒラあられ、まくマクひヒきキとスル事モノ。山ヤマのモとスル
モモモ 一ヒノモトモトモのモとスル城シヨウ
モモモ 一ヒノモトモトモのモとスル裏ウラ、裏ウラのモとスル蕪芳スラウや。細長スリガタ、幼少ヨウジョウのモとスル事モノ
モモモ 一ヒノモトモトモのモとスル城シヨウ
モモモ 一ヒノモトモトモのモとスル右ハチの馬ウマ場ヨウ。

五月の駒射の時、中サ侍の着をすらや。其衣袴、入内の時も
かの陣も、一衆ともへとすらよみて、方をじひの徑とる

ゆく

びえよきよしきも

一ひりんのほのゆで、井戸段乃

袍い、皮轡、冬平緋、色はつひれ絶の、と。同云、吉文の冠甚

萬歳行、玉冠吉文卷綺服首、吉文の羅、用ヤ。

一ひしろも、嘗殿すや

一ひしもんのゆちを、今腰せ

要義佐入、仍焉也

一ひしもやれ、おとた、ひしもす

門常並袖、ひのみよほ、ひみよほ、ひみよほ、ひみよほ、ひみ

なほそとすり活けり、よじもやの、おさく、くだくだくだよせ

一にて、駒りゆき、驛長、英鷲時、裏歎、丁年、一華是、一華

トロヒ詩や、やるをまつり、もとて、字のよ治や、公今又第
哥もと、此ノウ治、舞能、菅原の詩と作まで、うと
うと、うと、うと、

一ひしれ、一うき人び、流人

のゆううう、嘗承と知て、すけれ、ども也

一ひしく、矣也

一ひし

合

史記曰、太若ラ、下久不居、後漢書曰、位尊身危、敗多余殆

文選曰、不秀就林風、必摧、行高在與人、必悲、連全漢
月

一ひし、汝君のゆめぢ中勢ま

驛、駕、御子中、驚、氣明親王、左大

大井川、レ、親主と、留名との汝君の祖父とす

一海のゆめ枝、木鳥、びら、ひ、ひの枝、ひの枝、うねり、白毛
うまえのゆめ枝、木鳥、びら、ひ、ひの枝、ひの枝、うねり、白毛

そき紫の下レテテハ先あわてテアツアモセモと白ニ宣
れバケハシミヤズモヤ 一レシニヒのゆへ ふくづほの
ひあさ紫の下ルヘの定 一しねよもよももろ おどりき
モうそや

一ひうひ火ノアソテ人の腰立五
武も腰立リセ 日本記ヤシト・タシナヒト 日本武尊東夷モウカーレ空モ火モ
うちアガルモアソトモ火ヒリリヤ

一ひうわざる 伎者ミヨシ の袖代のすは嫁女モバ父ハ忍ムシトト
ミタメのいヒトヨリテ さらまくマサムセ

一ひうのちよドグモ 一後撰云大納言シナヅチ 球院の家主約
ケリヤハ平定支タキナギタニ モビテクモのゆて行末モキモ壁りゆり
ヲハシニ俄々ハラハラ 然る政不凡ハジカ ムクモ得ハ時ニモ

日本書

一ひうみれカトカトハアシニ紫の下レテテアリト
タベテ伝うる事ヒ松より喫ニするもればや松と約コラセカ
一ひうハ例をあくまうて 痘シラカシ あくまうての向よ政不改ハシナシ ハシナス
涼侯リョウウ がじ方太政大臣ハシナシ がれはあくまうて院司サニシ あくまうて
ねうせや、又詳ハシナシ は天皇の首ハシナシ の例をあくまうすて院司サニシ あくまうて
ニキアゲルス心もニヤセ 一ひうニヒの雲よ 废雲ハシナシ も
星也天トハシナシ 星也陽ハシナシ もニヤリヤ

一ひうもやううもくヒハ 是ハ漢高ハシナシ 天皇ハシナシ 也タヌ
一もこの人也 猛吉ハシナシ の舞ハシナシ いもんもされば天子皇也又右上
皇ハシナシ 也もんもされば又天子皇也又右上

一ひく地。ごうりよも。ゆえにせうを。たすき軍もくと
心通経功徳様を施入されしとをり。

一ひくのせに。幸あうちへてくらむるや

一ひくゆめり先。死人の湯。まつりて後。ひくへ湯。

宣旨まつり。光明石上のまづり。下のゆべ

一じまく。馬のぬく。苗村中の方。の者。云々

一ひくれん。あくらどき。未書。云。琴。勤。天地。感。

鬼神。

一ひくのせ。もう。や。伊豫松波。葉年のテ。余。ゆす

せう。ゆくや。

一ひく地。がく。も。さか。真。信。

一ひくれん。ふ。あ。ま。三。大。波。羅。

一ひく。生田川の右。あ。人。そ。発。火。報。地。か。よ。ま。

一ひく。や。お。若。休。魂。客。場。あ。生。而。十。三。年。不。去。

一ひく。ひ。く。よ。く。ざ。う。ち。り。も。法。經。經。了。安。く。中。く。え

ト。こ。う。ら。一。ひ。く。く。ー。さ。す。き。俗。ふ。み。れ。び。

一ひく。け。し。ま。れ。す。強。み。て。琴。川。ト。今。も。君。こ。い。人。え

ト。う。あ。一。ひ。く。ゆ。く。ゆ。く。人。く。も。く

一。漢。武。帝。以。董。仲。君。要。ま。人。良。作。温。石。

一。別。と。う。ひ。て。ま。ね。を。觀。音。佛。至。因。位。の。首。へ。志。

よ。ま。て。お。り。ま。け。う。は。継。母。の。脣。よ。ろ。れ。れ。れ。ば。殿。

一。ひ。く。生。田。川。の。右。あ。人。そ。発。火。報。地。か。よ。ま。

一ひくはまくらひや 或ト云云昔潔飯后皇佑山あやこの時金
峯山より久次、練行者きてかわへり。すり平愈の後中山よりて。
辛未の行業と廻而して鬼じるねり。胡青鬼云々。草子石
と云うつむけ候。智證大師わんごろ教説し給ひれど。
胡青鬼もさうえありて。もくをよりちよ歎のやうにて
もくよすり。後所中のゆきぬ候よりて。名ね云ばれよ。こより
一ひくまれくらのうち。は古かみまづる所へうすく

う

一うちへ人並み人や雲客とも同一。大納言中納言おう人の人や
一うちもさうゆりく。毎夜屏風と云や。

一うちもくらひやく。すりあやへさつがへりて

日暮地

けはくすすけや。後者のみうるえ。かくよ。宿とすまくて、
よまとくら。寺上の山門宣置食の事也。有室は中室と。が物
りの事も。よまとくらのへうや。みもく。不淨を
あらう。ゆきとくとく。さくと。すり送り。ひ人のよもやのそ
きとくとくとく。
一うちつぎ。新をすと。在ど
よ房と呼ぶ云や。又中室もうのやくを経り。清潔食の二間
と。とのは房よまとくら。ひのゆきとくらと。この房と
すくとくとく。
一うちつぎ。中室や。はお次つる
一うちつぎ。これいあらゆ。齋の事や
一うちつぎ。河濱護心とすきや

一右近のうき、禁中キンウにて、室の一割イハタより左を清翁室と號する

一もて、すまでけじもくや。まことあよせの一刻イハタより宿をとる

一ても、すまでけじもくや。まことのあよせ。左の割イハタより宿をとる

一解イシヨウは、互寅マツニまでありや。一うけひくま。義別イミツバす

一ト、もと、おとむかわの、一うきそをためへき。源をあまち

一やめす。まごとく人の身ヒトノカラスを。又とも、おほくて、いれず

一ゆくさきや。一宇多川門の門ウタカワモノの先

一寛平カクヒヤ、遠誠エイセイ曰。外蕃ガイボシ三人ミツジン必可ヒカル石見者イシミナシ。在簾中イリノニ見ミム。まと

一まて、河海カガハの、寔ミの御ミツ文モチ遣ハシマフし。花カサグサの字カサグサ。まと。叶カタマリ

一うきの毛ウキノウを。能ハシマムと。をせをと。こり。

一うけひくま。一うけひくま。一うけひくま。諾ダク受タケル。詫サムラの

早

一う人の令ぬ。附アタマ令ぬが令ぬアタマを。内裏ノシテは、仰アツメす。を。内裏ノシテは、仰アツメす。を。内令ぬ

一といふ。されど、この令ぬアタマを。が、令ぬアタマの、下シタの、書シテを。放ハラフす。を。

一うちよの、まもる。内裏ノシテの、まもる。ふゆを。

一うちうりやうそ。うらも、うらも、うらも。

一うちうり。朝アサヒよ、あくたアカタ。と。ま。又。承アシテと。ま。と。ま。と。ま。

一うけひくま。器量キリヤウの、へ。つ。ま。や。

一うけひくま。海カガハの、毛ウキや。河カガハ頬カガハチ。

一うけひくま。人の心ヒトノカラスを。うふ。又。青余シヨウ。あは。ま。

一とも急アハタハ。月ツキの、うふ。うふ。又。月ツキの、氣カスの、や。う。と。ま。

一うけひくま。納ハサフ。うふ。又。う。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。

一うけひくま。うふ。又。う。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。

うそひ

一うれしうらうる涙のふ

とまふううううううう
うううううううううう

一うれしゆうちもそ涙のううう

うううううううううう

うううう

一うれしゆめんじん

うううううううううう

うううううううううう
うううううううううう

一うれしゆめんじん

一うれし心現心也

一うれしゆめんじん

一うれし心現心也

一うれしゆめんじん

一うれしゆめんじん

一うれしゆめんじん

一うれしゆめんじん

一うれしゆめんじん

一うれしゆめんじん

一今案童女晴の日も打撲のう

一うみよます計の老経皆は計ふく傷の小アの達海、うも
ひ出ぬる作うるようちて、海よます計とアヤク又海中代計
よ計とそくすアリ。すあれど、おきとも計とほんよお達
わうま、トモヤハ有令ハ、ハ室の。

一海よつちまきにのやう花也恨奇、方士、楊支蛇をも
ト付のすりよ。二者碧落ト者薦泉じゆる。
一キナウキもさひねう波のこゆり、まれね山うづきうれも
一キナウキのそれ、おまねくといあられ人のすりとつ是
一計ナウキ、海松うば、うのすり。
一う人のまねのまきうする、じうじにもおけもみどりも経る
一計ナウキ、深潭きざまや、一計けん人をのうよとむし

卷

單題

上

一うつ下、物波ヤ
一う人のや房まへぢりへと、上乃
や房と、侍掌、侍等ヤ、前ハ左ノリ、右ノリ、
一ううねよ、左ノリ、右ノリ、文選、馬、龍、ねじまく、うのねじ
うのねじ、龍、じまく、うのねじ、うのねじ、
うのは、後云ヤ、そのう、うのねじ、うのねじ、うのねじ、
へつれねと、うのねじ、うのねじ、うのねじ、
うのねじ、うのねじ、うのねじ、
一うすだら、毛毛き神ヤ、一う人のみ、身、向、身、
あくすと、う人のみ、身、向、身、
よしのまくすり、ち解、うのねじ、
す、尊のまくすり、身、向、身、
尊のまくすり、身、向、身、

れ一卷と云ふ

一章れり一
ル製紙代乃

首々及ぶぬ心もとわそぞ一けぞ

一うきをうき鷦鷯名あうもあらむぞ

一うきされひえりくうきもあらむぞ

一うちれ表紙もあらむぞ

一うちれあらすや

従文集

一うすくわり

雅系寮人や

一うすれ表紙もあらむぞ 古氏より一せ語の人のやせ是也

一うすれ表紙もあらむぞ 古氏より一せ語の人のやせ是也
と云ふが古二人もうちうけ、一人はち政大臣の娘、一人は時の
内閣の内ひとりと后院のゆ一のゆすや、シバタノ久の元よりうけ

黒墨

ウキミトアシムハアズレタアズレハ、ままとうじめ生て、ばみ

うきミアテテ心とつす、うきと人合はて、去る

へまわせれば、涼かねと云ふ家して、山よ巣立て、かくよこえ、

一うちれ松、松姫さうらひまむいねや、じがきのやへくとすおや

のうすくわりうきも、一うすくわり、墨のうすくわり

一うちれ、おおや、うきと云ふや、サツケ月心や、

一うちれ、やうと云ふや、サツケ月心や、

一うちれ、やうと云ふや、行幸の宮と云ふ

一うちれ、後代ね竹て、ももとすゞと云ふ

一うちれ声よや、まの声よは、野曲のよや、心もそひかも、まの

一まれねづれ 立行だは・落梅の曲のよや

一うまるゆうそ・うす新田のよそ・やがくあらそも。

唐崎のよや 喜白さゆどり・くまののよみや

一ふれはーのゑ 宇多法師・和琴名物や・以舊作や

一うちよ・まつり落人のよみやとまとひて 女めうどんの入門の時と

まびて・院の内門より落民の内方へ出側をもどとまくらそや

一うすえ・えす・よや 一日よりゆうづや・うちひゆす

一うちの衣のつくけらうそ 河置紫・位立位鏡袍や

一うれきちにまく・若葉の内力・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや 一うちよきちや・まくよ

一うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

うちのくちくらそや・まくよ生て・かそのう

あゆづらのー・二条院・うつ二条院や

一うつと焼地のよや 一けすひ・さひすひ・落葉くや

一うひすき・ま声説引・東花下・東花・物語坐氷邊

一うちうくのよせ・や・はれ曲・歌曲や

一うちすく ひねえ巡のすとくうち。このこのせ 貴の二
よもせうちうらのす鷹のすや

一うちすく うめうめうめうめうめうめうめうめうめ

一うちすく うめうめうめうめうめうめうめうめうめうめ

一うちすく 隆奥守よりト一時のすとくうち

一うちすく 馬後の鞍金馬とくうち

一うちすく 鞍金馬とくうち

天皇御方玉前後し御大字寮 祀印杖八十枚 印祖の御

印杖三十枚年中此御事と御行杖と用れ年中行すとあ

一内よ又 内寓

一うちすく 内舍人と云り侍の妻

うちすく うちと見也

時々セリて、ひおへたまもセタヘモ足也

君ト
一のうちうニ丸さき一とみて 馬とくらみて う財ヲモアリ

うじつづか二月のちよきすをもを。三月まで延引る。暨元

三月も敵軍、女院の山忌月されば又延り也

一のやよてのせあらそのせこりよと同。上吉のま

一のやううと暮れ、思ふどもあらぐ煙ともしん也とモ也

一のがわうと、のがわうとハ、宿の内伍のタル松もてねじは

別れ、除せとあまくろすと、あまれにびとをされ四也

一のくられくられ、春らどうり。礼記らもどろき。

五月賄らもく。晴々とのち、宿星才うて、遅延行へ。小峰

對方も約束にて、尊そ。一の城もけり。も、日峰轟

レル

一のうち地、勝負の地也。うちのうち地をめぐれど、其二丈の事

きの絆也。八萬賄うと

一のく ものく、家也

一のうち

と、勝負と法のゆゑにあらす。

望みくわく、海舟乃

よりそえまうふを

一のく

野あや

一のくを、たもせらむ。も復せ。せらむ。

一のくも、も紫あらむ

一のく不づき。おまめ役、肉屋寮

納飯、兵糧飯、乾口。には印室

と並んで、おまめ役、徳五郎しまつておましり裏

一のくあり。退居のゆや類、の類、堕

一のくあり。て、とうどりく地。とあぐなを也。所、金のゆれ

一のくあり。退居のゆや類、の類、堕

一のくあり。退居のゆや類、の類、堕

一のくあり。退居のゆや類、の類、堕

一のくあり。退居のゆや類、の類、堕

一のくあり。退居のゆや類、の類、堕

新葉下常は聲とあぐす。すまや鍊釦うどや

一くもれゝも葉中は洞カタマリくわて月とゆくんすよおもす

うの春の月へすよこゝへんじてゆや

一くもれめや玉親國母タチヨシノミコトあればぬべ。玉國のめやとふ

かへ六条院のあ玉天皇のすまくさくくとくはづくふれられ

すくすまれゆウラくされたりや。若狭やけのゆくらきは。行政國自

の季と浦ホタナ作してすらす。浦底ハフタモトすまうとえりくす

一ふかにやけのゆくらきは。そのわくよらえや

一くもんさ冠者ムツヤや。元服する人を云やくことまつらす

一くもんくすへトハヌスや。或腐アハタク不。くよし

一くもんげくす。角カクをやくれ。布ハタももくれ。伏ハタハタへ

一くもんひ 椿ツバキや

一くもん萬ブンかや。何ナニすれ難ハラカせ

一くもんハラシじジテす。實ヒツあうへつハタシや。すづく心ハラハラ取ハサハサてゆく

一もんげくすへくよし。そ

一くもんハラシじジテす。一くもんハラシじジテす。一くもんハラシじジテす。

一くもんハラシじジテす。細碎ハラシ。

一くもんハラシじジテす。春ハラシ。

一くもんハラシじジテす。風ハラシのくよし。一ぐんとも

一くもんハラシじジテす。風ハラシのくよし。一ぐんとも

天室アマミ在原氏アマミシマツ四十九日シキ。弘文ヒガツ後アフタ相去シカク朝總書アマツシヨウ之見シミ文ヒガツ粹シキ生シヨウ。

者心の御釋をもる。是れ梅櫻也。燐ふる。表葉。天人猶逢五襄。

日既朝之。而復也。

一くじんへとすとくわくゆき

寄と賜也。五位より爵位の初から花冠今と。一様の本とあら

多。し。五月八日。叙位。六位の元人。必廻爵。とて後又位下の叙

きくじゆくまや。私云。翁人。うちもつよそじよ。内す。うちもつよ

ご云も。うちもつよそじ云。復也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと
声也。

音也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと

をちうきじむ也。一くじくつまう。功也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと

をちうきじむ也。一くじくつまう。功也。

四時之書

一くじくつまう。功也。三ツのへと云也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

一くじくつまう。功也。三ツのへと。黒のとくま也。

車ふと云々

一ノうがうるもみて 黒方臺を

うわ殊物の名也

一官爵とこれす 深川流罪

ハリモトテ除名と云ふてさうもどりて除名と云ふて
やおもとてこのも。うりとまわる官儀とまのとさくを佐の
よあらゆりと云ふ氏も除名せられしよとくと改め並長とさ
キとくへり配流の人とばんえ除名するも除名くらうて
流罪されりもきされは罪の體とよしとす。源氏の除
名ハ左近の例と用ひうや。菅原道高。明公行平。周ム且くれ
よりとりてあくと云々

參の行法也

一ノ車ふとくもからし牛とへ
一ノ轍とくもからし牛とへ

日單四十八

のとく 椿翁中萬香童義うちもくらべ翁のとくのとく
の繫とくづけ打ふ。ゆれば萬の名とくらべ翁
一ノ車ふとくもからし牛とへ。蓬莱駿到りを知
かし。みて。りて。ひく。ゆて。ひの枝と造却て。吹き。せり。時。と。造
かく。のとく。福の赤トセ。せり。も。傍わづて。を。ゆ。と。
ま。行。む。ゆ。と。あ

一ノ雲のとくよ 五三位の鷺とく

す。べ。申。共情の事。云々五三位の中八人うちべー

一ノ車ふとくのやうせよ。けやくへ 金光明經曰。獨拔而出國

仙正覺。老子成功成名遂而身退者天。う道也

一ノ車ふとくに。若舟也。牡丹ともふ。えの頼。」云々

一ノ車ふとくわ。こう山ののとくが。あくさくあのみのとく。山室。

西國の裏城をうとまそて玉やくすをうさみにしり
一くちうつらわらのまひくまき うめうふうとまわのくまき
やくしりすへ黒くまきや まくへあくじくまき
一くちくみ昔武官をして、毎日の節々を行ひて、騎射のうりうて
まくま門有農業商人あやくめんじもえ門侍某事とおみこ下
よ流時、くまきと左の肩よりけりて、左の脚へられて、二の緒とが
て腰をゆのて、各行進すと、腰帶緋縁じまうり、又令を送る
いそひくまき
一まわくとひくちの海 まわく
と、近は赤糸方よもへまく、びくちの海のいふとて、はくはく
よ立りさんじまへまく
一くちうきあく本 ほくじと黒井
はくとまくと赤木と云
一くちくへ左歩の後、まき四辛山
單写

行幸の時、臣人たる涼後春と内使にて、雄一役中多人民を
ゆく。主御の心をうそ
一くちう切にきにまく
世人皆鴻我独情象人皆醉我独醒
物見
一くちく人不
能人不食とよあは是ハ六条院のまく
一くちうき
一くちうきの内約、高云、内侍うちの人のま役とめじもくや
有の
一くちうは 國史云、承和七年四月八日清津岬の町大法師下位
静安寺住持、始行灌漑事。准古天皇十四年。始、承和四年。
八日設宴會 景記
一くちうき
東御うちのやう高見りく、反覆のまくわる所すとづり
手取下
一くちうきつば 捕と罪と供氣する物也。罪とす心也。休

民とハ作ニキテ人かすゞトテモクシト。後悔う活心也。

一くづて此

今東山城玉愛岩都

ヲタギノヨリ

聖極下社祭也。寛仁二年十一月廿日陣走あつて官舟をか

れおつされ。山ゆれ。くまのへきうちらんと云ハシキ也。又

宇治郡下毛小字聖極守き。それで云ふ。あづ

一くれあわのきは。むは。源禪。服の時ハ黄。からふ。潔也。一暮の

正義の船。さうや。一くら。九重。文中。文中を

くらう。とよし。更に。一くらも。まも。船者。侍。序と

て。役。と。ゆ。り。て。お。り。と。す。く。侍。序。の。ろ。日。月。の。先。も。も。

う。と。せ。れ。記。向。喪。篇。寢。苦。愁。親。え。生。土。や。一。も。や。

一くづれそ。う。と。く。わ。の。心。う。け。初。ゆ。れ。若。と。と。け。く。と。も。

墨端集

立田川。よ。う。ミ。ツ。ス。カ。セ。ヤ

一。云。あ。と。玄。侯。王。毫。一。人。の。

心。え。雲。端。の。中。ま。一。つ。み。ゆ。ハ。ヤ。い。く。う。

一。く。ら。う。う。そ。朝。を。も。強。こ。も。て。も。内。第。

一。く。る。く。の。じ。う。い。よ。參。教。や。く。も。ん。す。と。あ。う。り。ゆ。

一。く。じ。く。の。じ。う。い。よ。經。信。す。人。の。す。や。面。自。患。錫。嚴。為。人。所。喜。見。

法。華。經。傳。表。切。悟。モ。ヤ

者。み。し。く。そ。と。つ。若。き。一。く。ち。ま。う。ご。の。死。床。福。オ。招。

一。く。ち。わ。う。ど。官。信。ハ。數。心。の。妨。じ。や。は。や。

一。玄。の。く。う。く。僕。川。ハ。雲。の。く。う。山。ち。れ。大。い。あ。く。う。ハ。ま。う。ら。う。う。

山風吹とも又どひのくも

源氏同案卷第五

や

一やんとくちきを無止すされば、よろしく人をアヤシムハ位

すまぐ人のゆうへとされねわうれば、やむことくまくはづり

一楊貴妃 長恨哥さり

一やくにくもりて やハルセ

候浪時々

一やまとさす 和國のおや日本

おとくのゆえ、あふやまとおへよとせりへ。す節目せよ。

一山ふうの山ふう、様と云や。チクキの卑下や、狂す、みくらぎを。

の約よ。ねへ、まよひへ

一山ふうの山ふう、様と云や。チクキの卑下や、狂す、みくらぎを。

一やくにくもりて やくもくもりて

一やくにやとつ声や

一やくにうんやひ止や又病や、あよむく

一やくにうんと癪うるみ内一やくのすけらう人

一やくのゆうへつや。新嫁在今難中、ほ氏ゆ後楊君のゆう

志ち細竹子君ゆうへつ、送りけり。有原雅明教旨

つへう、歌もまよウが、かの富山ゆうへれあくべどもれ

くーおちね片

一やくあてよとくぐりてへまくすやまくあめみやのや

音もくゆゆうとくもくもく、一山ふうもまくびよ、古事の序の

句や

月と秋月とすとくも 一山ひとあまびに内俗

どつてれや

きくづへ三ヰちむと知や

一山へ山ごどもりづく歎山のすせ

わらじめ やう

一やうう 金廊や

一やうひ 前つうきの月をやりてしや。五月もじつ。

二月はきゆゑを西月うつて。六月うつてつれもひ歌や

一山づふ 裏山ゆのあい。前て英よ。裏聲や。後山ゆハ雪て敵

竹葉裏英や

一山のすもがとう。琴のすも

へとくきて。鶴雲おもりくづく。地の草もうつてつづりあす

一山もよもうつわく。くづく。尾志のつを清毛れどや

一やうひえきくす。是ひどもえよ。えわや

一やうひえりくづく。うつて。紙と書や。山紙と書いて。ひづく

一

秋と残や。そひぬ若や

一やうのゆと ちあひやられま

そぞ。秋家文院。それもひち。やう。心づく。あう。をくら。

花ま季の九月。秋家。のれ。くぢ。心とつーの。ひ。又文院。内

ゆう。ひ。う。そ。秋とくぢ。のす。や。ま

一山つ。 集日記 東産 畿万俗よみやげくさりや

一ニ月六日あまうの行

死丈左符左達。左事府。至。安和。二

三月六日や

一ニ月のつづく。ちづく。う。この。日

二月朔日。よあづる。二已云。セ風記。云。三月上。色。伐。薪。水。下。く。時。飯。

食。鳥。脯。縫。漫。云。礼儀志。云。三月上。己。日。宮人。置。禊。飲。於。東。流。水。

上。己。祓。禊。の。す。詩。季。太。成。」。あ。下。三月。地。春。水。下。時。付。祓。

蘭。葉。拓。魂。縫。禊。祓。除。不。祓。

一山ざのひづるよ 山伏呼伏とばくせのふれて山林にす
笑む御家と云ふも 一やざる 教承

一山人のあらまことみ 文送潘安仁至賦曰 条下纂集朱實
離れ事文類懷モサ若以却レ老方見上サ名曰臣首游海上
見安期生食臣棗大如丸今棗あらまことみハ棗の數ナ

一山ぐらむさうりされ山口ハ山入の木ドリと云セ。伊勢造文のゆ
んにて十月より山口祭あり。されも松入の木ドリ代のくら

一やまともみ葉は秋の表と万葉才一云天皇詔内大臣有年
朝臣競勝ト春山万葉ノ豈秋山千葉ミ 神阿額田王以歌射
えキ 秋山の本葉と云ては紅葉とハラマテテその小略シ
一やつはくとくや 一やくとり又と不役ノツキ居セ

一やまとよしの絵本のあくこちり蟹

一やまとのえどアヘモアシモガゼ 松陽名義等の内松河馬若崎
ハ八幡月神。義勝ハ前神功皇后ちうと

一やまとさくへわねに移シテカクアシテカクアシテカクアシテ
えくと云セ

一やまと かのの名勿海セ。されば寛ノテハ只和國のと

こちるやべとてつる元和琴ハ絃六すらあく
一やかぶるやどもて 大お納言以新名ニゲラ若と貢る也

一やまと そべ一そべ一そべ やくじとも云ふ。あくとタベシ

一やまとこれト並ね甲向ヒリイムトモ。ト織のひりハ時

節よりもくわくとてや。一答下襲の及ばず節よりもくわく。獨海

八十一日より五用すりて、至冬へ御と多す。友へかと云内ねぐ

一柳の葉と身とびれて、りぐさ。史記曰。楚有養由基者。善射
者也。去御葉百步而射之。百發而百中。之危右觀者數千人
皆曰。若射。

一山あゆ。一すわう。竹のつる
繁茂隙付繁年。竹文と摺袍薄。蓋深下。襲地摺襪合
襪。陪後襪。摺文。美。摺袍。御色下襲。白綾襪。合大口。赤純半臂
緒。別等。各用付え。平。御のつる。と。東襪の襲來るや
一御と。づりて。づらう。河。楊御。と。白。き。み。ゑ。う。時。双
絹。衣。と。わ。を。き。づ。る。よ。う。と。へ。う。と。

一陽成院のれぎ。陽成院のれぎ。或ひ。文真。保親王。と。野

目中筆

ト。されと地蔵の或ひ。と。すへ。と。統。一。竈。れ

子。タ。ま。ち

一山里の表と。す。び。羽。卷の名と。ぬの名と。つ。ち

一山。づ。け。ま。れ。と。心。え。あ。り。テ。身。お。き。れ。と。と。と。と。と。と。

や。う。の。へ。じ。う。と。心。お。き。ち。う。と。云。へ。う。う。と。と。

一や。う。と。き。活。遊。や。と。ひ。や。か。ゆ。や

一山。づ。の。ゆ。り。山。す。ハ。山。の。お。を。と。と。と。ゆ。う。物。や

一や。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。推。す。と。と。と。と。

一山。づ。の。ゆ。り。山。す。ハ。山。の。お。を。と。と。と。ゆ。う。物。や

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

さんざれむや

一やづりの

夜と日

ひふへてすてすてる也

一やうしも

首

やうきも

不だかくすへやまく

一やうく

死

ゆき

と。寄生ぬへうるを

一やうく

死

ゆき

一やうくも 前の參の哥とみの内す

一やうく

死

ゆき

一やうくは 成と破りもばれどきの内す

一やうく

死

ゆき

一やうけの志 備志基美也

一やうけの志

築

三

一やうけの志 参進

日本記

奈良

三

一やうけの志 あらもと月也

あらもと

月

三

一月のとこも。真帆もまことに云ひて、うなじに真帆と
りゆきをつてゐるや

一月か 真帆

一月にちやくの定 一月と 真人がうて云ひて
一月うど あんや 一月はとえみ云ふ人多

一月うど あんや

まよまよとこのの白青黄へまじりと紙とれども
一月ひへまつぶらしを 一月ぞくへぐふ むろあく
てんぐうや

敵対とつて、あれやうも凋うねの程のあくらうゆくや
一月んあけいと 改あらわして、万よりれの用をつまらぬ。
まよまよとち、敵対へ入きて、あれやうりとよほづくども
一月しゆきをとひあくで、案といふらうをお役めや一月のと
りれび三月の船と、一月のと、除帳の後もと、がくくへすす
の衣ときりよせ、まどゆきをとへた海もえを打た紫藤弓もく、
りつまねとみべー

一月うど あんや たく、まつち
まくらもまくらまくらや
一月うちれれ 素こひひて、葉井

のまくらのゆや

一

一まくらとそぞくとて 遣愛寺鐘歌枕帳

イ
アレジノカニハタモテラキ、白承天

一まくらとそぞくとて 遣愛寺鐘歌枕帳

一 もうへりくに林葉をさうら 神奈有千歳早哥カクニ
一 まもとつゝく 源氏の恩不外ミタケハ松林の守護サオソウガ

一 おやへえとほりて ばあとミタケ行コリ

一 まびきミツバチ 仁和ちのむすび大日ミツバチ摩訶盧遮那カヒルモナ

八 大日モワセ

一 まづアヌスミツバチ 行人の

眼ミツバチに見ゆるミツバチのひら。まづアヌスミツバチへ目やづへ

一 まづアヌスミツバチ まちどやうの心ミツバチを

一 まづアヌスミツバチ まちどやうの心ミツバチを

一 まづアヌスミツバチ まちどやうの心ミツバチを

一 松のぬわまれ 衣ミツバチにまづアヌスミツバチにまづアヌスミツバチ。

一 ねの葉をすま、仙人ミツバチ王堯食松葉不飢焉百七十余年
すまのひれ也

一 まづアヌスミツバチ 全ミツバチよん

一 まづアヌスミツバチ 全ミツバチよん

一 まづアヌスミツバチ 心ミツバチにまづアヌスミツバチ。

一 まづアヌスミツバチ おれ枝ミツバチ山ミツバチぐれと造營ミツバチて、がづらを枝ミツバチ

一 うねうち。枝ミツバチ和ミツバチ木ミツバチ布利ミツバチ 一 まづアヌスミツバチ うねうちミツバチハづれ也

一 枝ミツバチユソヘ、うじと行ミツバチこあらんねよくら

一 まづアヌスミツバチ おれ枝ミツバチ山ミツバチぐれと造營ミツバチて、がづらを枝ミツバチ

一 うねうち。枝ミツバチ和ミツバチ木ミツバチ布利ミツバチ 一 まづアヌスミツバチ うねうちミツバチハづれ也

一 まめ人ミツバチ まめ人ミツバチ也

一 まづアヌスミツバチ まめ人ミツバチ也

一 まづアヌスミツバチ まめ人ミツバチ也

一 まづアヌスミツバチ まめ人ミツバチ也

一まきぐら 二ささぐらぶれととてあまよ麗也

け

一けうの更衣 やり年姿の三四位のもとよりおさうべし。更衣

とこはよりうそてうりうそそうてハ。洞窟カクの更衣は中代也。

一よくしべきづらも え衣の里子のすゞぢら

一りもそ やひひそや。ちちくそてもまやと常也

一りうわきりふ 鮎アマツあくびし

一けーともふ。これ向まつて心こめりや

一りみ 亂舉カタハラフハ勢

一けうの河結目 捶目

一けうハわくめ

りすくへや河不下習アマスケミ不世

一ケうを 亂近

一けう

ト富也

鼎事

一けくら 嫦カニカミ思也

一けたふ 色カサハ也。

一けう 突カツカズ也。

一けう 亂殊カタハラフ外

一けくらゆか 亂字カタハラフ也

一けくらゆ

一けくらゆカタハラフ也

一けくらゆカタハラフ也。

一けくらゆカタハラフ也。

一けくらゆカタハラフ也。

一けくらゆカタハラフ也。

一けくらゆカタハラフ也。

清方

一浦氏のむねやひと 田篠氏

親と逢詠源氏姓と。りや。也。先序文。

一けんく 疎遠の歌辭也。一けんりく 謂

けうと。もと。ぐき。名をもと。ぐき。うじ。つぶ。ば。一。確

うゆ。也

一けふ。六日。れい。れい。一。確

物忌。也。長神。方達。父。日。六。日。讀。す。也。又。一。行。行。て。も。も。也。忌

ぐ。う。き。う。こ。心。い。べ。ー。天。す。れ。れ。也。忌。あ。う。う。く。日。也。

一けちえんうき。ほ。け。揚。鷗。わ。く。う。う。火。氣。ど。也。

一けうきう。津。あ。う。ひ。あ。や。う。と。ん。ざ。れ。也。

一けうあ。れ。の。り。え。く。て。翰。林。の。人。公。私。す。也。韵。の。字。も。

切。韵。そ。て。何。字。と。も。う。て。韵。う。す。く。ま。す。も。く。又。韵。の。中。よ。も。韵

も。え。て。韵。の。み。文。字。の。中。平。声。の。ま。と。取。て。韵。う。す。う。も。も。う。

開本

又。行。韵。う。と。も。作。者。の。心。も。せ。よ。る。時。も。あ。り。

一。源。氏。の。う。ら。う。と。后。よ。衣。壇。の。中。が。の。後。さ。ま。乃。女。は。中。丈。

源。氏。の。姓。を。名。づ。く。が。れ。も。帝。主。親。主。の。名。を。バ。首。通。氏。よ。す。也。

心。が。右。式。の。中。絶。す。も。一。け。う。き。う。と。よ。化。粧。分。と。よ。

く。つ。う。そ。也。

案。辭。也。

う。ま。く。お。ふ。う。る。愛。り。ま。ま。く。一。け。ん。家。損。家。の。も。も。か。

と。つ。う。等。也。

一。け。ん。い。う。と。行。文。後。ハ。有。行。文。後。也。謝。惠。連。詩。云。客。從。遠。

万。末。遣。我。鶴。文。報。と。云。月。四。也。或。說。顯。文。報。也。乞。し。三。や。う。ど。

あ。う。ど。一。是。公。文。の。表。表。と。云。あ。う。ハ。報。の。空。文。う。と。も。ら。わ。う。也。大。略。月。

まことにのむとへ時ひまはまのまの生民。花園は深くおや
おのへ。

一けやうもつうもうれ芦垣の哥。舅の女をあらひて家ゑ
壁と壇てあると。女のやよびう人のきりと。とあそびでうん
とくくぐと。キサ荷さひかでぞれとけやう。三行のふや。まお
りうひ家のと云内と。平へよりうひ家のと。やまと。の妙音。しのぞ。

おひゆれ。右。ソク。と。り。て。は。す。壁。て。ひ。く。の。た。し。を。
ふ。め。ぐ。一。げ。や。け。う。も。す。く。一。も。く。か。く。云。や。

一隊民のうち。と。名。と。京。が。ゆ。源氏の行。と。名。と。京。が。ゆ。
と。名。と。京。が。ゆ。

一リ。き。疫。難。う。ご。と。や。一。け。う。の。や。う。ら。 晴。土。菩。薩。勝
よ立。病。就。毛。勢。む。の。す。や。 一。け。よ。あ。う。き。う。う。う。う。

早至

タ。身。の。赤。の。仰。せ。中。と。じ。づ。よ。せ。一。う。ね。う。も。わ。く。
え。と。ア。キ。、
一源中納主。中納主の。一。行。河。の。ま。に。も。又。椎。木。る。も。中納主
よ。安。ゆ。と。う。け。と。甚。大。嚴。の。時。ぬ。ぐ。一。行。竹。川。椎。木。同。ト。は。と
い。う。う。や。び。ひ。牙。よ。う。と。う。れ。と。深。亂。す。ぐ。す。甚。の。多。教。こ。く。
の。巻。の。こ。う。と。く。う。う。と。す。り。ね。う。う。と。あ。頬。モ。用。素。の。行。き。ニ。塾
一。け。ん。う。う。甚。基。の。脚。玄。や。耳。見。聞。の。や。又。観。説。や。け。う。う。み
う。う。う。あ。と。げ。う。う。う。う。あ。と。あ。と。が。う。う。う。や
一。け。ん。一。孝。養。や。一。け。ん。一。け。ん。穢。や
一。け。ん。一。譲。摩。よ。答。子。や。く。る。あ。と。う。の。月。日。一
一。け。ん。一。化。生。

一けじやく 猛易也。とへまうととへじゆめ。げす也。とゆうとと

ふ

一うちくじめ 皇子七歳。そて。ひづれも。將ます。まつて。か詮。お經席
とつよみ字。とあそび。うきひりや。おれ經。考經。或ハ真觀。改定
とくも。もと。先経。や。七歳の例。あ。

一うちくじ。経。舞踏。キの舞。足踏。うらし。

一うちくじ。歌。歌音。金。や。

一二のうちくじ。貪福の二道。や。富貴。安易。嫁。く。卑。輕。甚。丈
貪。蒙。女。罪。嫁。く。晚。考。教。姑。文。集。

一うちくじ。俗。よのと。日。

一うちくじ。風癇。や。又。脇癇。や

一うちくじ。不意。や。

單本

一うちくじ。謂用。や

フニラ
ミキサス

ペーパラ

フニラ
カクノト

一うちくじ。あるのうちくじ。未。被。毛。衣。被。と。そ。を。み。と。ニ。藍。ミ。ニ。

フニラ
カクノト

一うちくじ。ひん。る。も。と。月。一。不。段。や

フニラ
カクノト

一うちくじ。衆。説。文。云。食。父。母。不。孝。鳥。や

セツモニ
フニラ
カクノト

一うちくじ。く。う。し。そ。け。を。か。く。う。と。う。の。え。か。く。う。

フニラ
カクノト

一うちくじ。人。も。の。よ。う。

フニラ
カクノト

一うちくじ。わ。と。り。か。や

マニヒ

一うちくじ。あ。置。ア。瓦。や

ガサツ
リタナラ
サタ
アモ

菩薩。衆。大。白。象。鼻。如。紅。蓮。華。色。觀。普。賢。經。

ケモ
カバ

一うちくじ。も。も。ね。て。ん。こ。つ。歎。の。ほ。そ。つ。ち。へ。う。く。あ。え。昔。

ましよゑすすめり。船水衣フネスイ少ホシまさんハシマ歎ハシマ歎ハシマ観ハシマ観ハシマ。
移ハシマ遠ハシマえ。うちのうもざわと。お先ハシマか将ハシマ食ハシマ横ハシマ川ハシマす。けく。
中ハシマあみにけく。けく。手ハシマ引ハシマ紙ハシマ。

一文ハシマでのうらうらを。荷ハシマあじのうれし。

一文ハシマのんハシマかハシマす。詩ハシマを教ハシマ説ハシマす。庭ハシマ中ハシマよ立ハシマう文ハシマ主ハシマ。
もそれ等ハシマも。文ハシマへども。階ハシマ下ハシマよすも。深ハシマくすも。やへ
花ハシマのうんハシマい。花ハシマ解ハシマやけびよ。すくへて。かく見ハシマれ。亭ハシマ。
て。苦ハシマき寫ハシマく。又天曆三月四月十二日。龜ハシマ者ハシマ舍ハシマ花ハシマ寫ハシマる。和琴
管ハシマ絃ハシマ。

うらうら。海ハシマ。

一文ハシマを枕ハシマに。夜ハシマに。長恨ハシマ。

序。唐中多ハシマ多ハシマ麗翠ハシマ食ハシマ寒ハシマ。白氏文集第十二唐中。

目録

勅處ハシマ田枕ハシマ故食ハシマ誰ハシマ去ハシマむ。叶ハシマ涼ハシマ心ハシマ。永正ハシマ大和ハシマ。

一ふらやうらりつハシマ不ハシマ定ハシマ。一文主ハシマのす武王ハシマのむくハシマ。

史記ハシマ魯世家ハシマ周去ハシマ自稱ハシマ。成王ハシマのむくハシマ。後ハシマ成王ハシマのむくハシマ。

とくりはハシマええハシマ周去ハシマの王位ハシマのつゆのゆくハシマ。成王ハシマのむくハシマ。後ハシマ成王ハシマの位ハシマ。

よ付ハシマり。よくハシマいぬれハシマ。どうすくハシマて。いく。ま難院ハシマのゆハシマ。成王ハシマの冷泉院ハシマ。

今ハシマはハシマへ。お遠ハシマす。やうらうハシマして。成王ハシマのゆくハシマのゆくハシマ。
人ハシマ。今ハシマのゆくハシマこと。うらうハシマ。うらうハシマ。心ハシマ。我文主ハシマ。す。武王ハシマ。す。
成主ハシマ。叔父ハシマ。也。於天子ハシマ。亦。不ハシマ賊ハシマ矣。

一文集ハシマ。白宋夫ハシマの詩賦ハシマ。と。つ。う。や。七十二卷ハシマ。わ。と。せ。慶集ハシマ。

さと云

一卷

勅石書司ハシマ。

称唯作云御 年奈良々方為礼書司則取材女如琴置之而布
个糸物合の後 は遊あり書司ハ女官の後和琴とづきど
るよし。和琴とやて文のつまみせ。うちもハヤリ多の後一

アヒト和琴や 一 丹波
アヒト和琴や 一 丹波

アヒツアハルの後て琴を引ひべに渡もくとく人す

トコトミキテ

アヒツアハル

早

アヒツアハル 内のすゝじまう地のあやウムアヒツアハル
アヒツアハル 女の姿まもるうあわや
アヒツアハル 脇や端ソイリふるううれぞ
アヒツアハル ひきづりや
アヒツアハル 一 丹波
アヒツアハル の縁や涼のみても葉のどもくみや、つむつむもくれぬとのゆくち
アヒツアハル うんせきともくれどづす 内ち見の紙ハ勿やこうううよヌ身
の縁れのうきもうくあめこ恨絆細や、寒れくみハ、みれ又う
やまうすや、世人うれだみよ准一てれとのうとく、今の世
も象れくみや、ううじれす人儒たのをくへと云や
アヒツアハル 布施よ首ハ張と用うを、中へしら城工ぬくらや
アヒツアハル 布施よ首ハ張と用うを、中へしら城工ぬくらや

一
一

一 あく葉うると若くか わきれえりく、威義立後袍アマキ・えへくアヒ

一 袋カサ良トモちちよ、やつわは 晴衣ブリエととま経アシキうとよや

一 うられそのよ 奥入オクイリニキタスモキナ行哥コウゴと不前アフメ云ク母マタ神ミツシムを傍ラジホンうと、只アシキ穂アシキ

一分シテの経アシキもとと心ハシメめてえとへートコく

一 やくつよまートモち 譜アシキや、何海アシキ琴アシキハ譜アシキのよ 程アシキを略アシキ

一 えくドアシキて 油氣アシキと封アシキーアシキ落アシキが、行アシキ務アシキ者アシキの様アシキや

一 うらづアシキ 姉アシキ尼アシキよ吹アシキすても、四アシキづアシキと風アシキや

一 うらとのよと、源氏アシキのよすアシキも、そこまのよせアシキを止アシキみや

一 うらゆめ、左亂アシキう心アシキ内アシキうよらや

一 うらゆめのあられ、翠アシキれねよ、うみよ、更アシキよ行アシキと、ハツマムアシキとて

一 うらけよ、柏アシキ年アシキ差アシキ中アシキれうと、風アシキは、思アシキうてす

日記

一 りきうちれ、せどもうとアシキと、ハ哉アシキ音律アシキハ、皆声アシキの調アシキすよびて、咲アシキ

一 つすうや、うとアシキ、
一 おせんけアシキ、字アシキ媛アシキ、唐アシキ媛アシキ、

一二三日

一 うらうとアシキ、

一 あすく、粉アシキ熟アシキめ穀アシキ、外アシキえよわアシキ、粉アシキうて、飴アシキうて、其アシキてゆく、甘アシキ葛アシキと、りて、そのようアシキて、ゆきそき竹アシキのつアシキて、其アシキ丈アシキくアシキひて、あざアシキとアシキて、つさアシキすアシキて、も、姿アシキ双アシキ六アシキの御アシキ及アシキ也

一 うらうとアシキ、うつうの御アシキ、

一 うとアシキ、

一 うとアシキ、え和アシキ新アシキゆ、望アシキ新アシキゆ、と、またうとアシキ、

一 うとアシキ、またうとアシキ、白アシキと、青アシキと、の、中アシキで、うとアシキ、と、よ、すうとアシキ、

一 うとアシキ、武アシキ勇アシキ、不アシキ遙アシキと、と、も、一 うとアシキ、

一 うとアシキ、武アシキ勇アシキ、不アシキ遙アシキと、と、も、一 うとアシキ、

一 うとアシキ、

一 うとアシキ、は海アシキの心アシキハ、あくアシキひ、

秋山ノれ候也すも 一あくじうどしたうもく向え
一さきのる 史事や 一あく 不事

フカウ

一 こち不
一 こぢわく町マチのりくくおきうちゆうあく時ハセ
一 こちくらもん 告方コナタ候方カナタ也 一 流流フロウ候フリ候フリの西ハタケあくう血クモリ
れは嘗アハハせぬよらうくや 一 こううく人ヒト心ハラ掌ハラハラ
一 こううくを 心様ハラハラ
一 きあたつすくと云スル也 一 こううくのりくらうやう弓ヨウ
一 べくあくもミチスキ行ハシメルきの一人ヒトのよも 一 かく太酒カクタサケ也 て左右大臣シヨウジン故シテ而ヒテ
一 こじま 言種コトノゲ 一 こちうご 高麗コウライ人のよも
一 こううくを 花城ハナシタニ貞令ツバタケイの玄蕃カクバンとへ訓ハナシメル法印ハガタもくらうとの
一 まきとくらう 玄蕃カクバンハ客ホスト也 傍辰ボウジンと云スル也 一 ひく 百歎國ハササギ
もくと本朝ヒマツちゆくへよ 蕃客ボクサクとひく いへく け察カニツよのきみうら也 一 こちうご 高麗コウライ人のよも
又 峰アラ勝アラタハ腹ハラの前マサニと白崩ホワハラ 鳴アラのきアラシきアラシとひく そすゑソスエ也 故シテ不
鳴アラ勝アラタハ声ヨシと傳ハシメルも云スル也 黑アラ國コク人ヒト本朝ヒマツの時ハジメ通ハシメルすといひす
さきて、あむの空アムとてつようくアム也。大年生産オシヨウはきアム也。或ハシメル、或ハシメル
余アラタ四ヨリづアラタ云スル不アムれきアム也 一 こううく 始ハサフ 仰アハラくう泡ハラハラ
一 こううくわん 穀食院コクシキエンがある處カマクラのよも 一 こううく まうら そうちアラタのひふら
一 こちうく ひこうくらも鶴アラタ也 一 こちうく 云スル撫ハラハラ也
一 こぢく中マツダよ ほうちうるれす也。又 韶アラタうどひよ心ハラハラ也。花ハナと
あら難アラハラゆ中マツダ也 一 こちうく 巨コノ字シテ也ちやうろ

竹や

一づまちく つよつめや

一ニミキシひ ふくまくわきといくらせア室や

一ニミキシひ 坂道 南自氏その恐名也

一ニミキシひ いさんやう つうじもとしれ人のいさんやう

一ニミキシひ のほ氏の志をひゆよとむら

一ニミキシひ 心づひやがまくと古法也

一ニミキシひ かくひ心づひやがまくと古法也

一ニミキシひ みねも紙つれきとへえや、りんめくふうおうす

一ニミキシひ まきの紙袋をよこすとまやしとれくよふられ

一ニミキシひ おきの手の美也

一ニミキシひ 一づまちくのまやく つうら

日記

六月の暑氣もまだ暮ハのうだぬれや、暑氣とうりぬや

一九日のそん 皇陽宮 実よハ天皇南發よ出

もうと文ノ博士よりて、かどすく一うて、各頃のまをまう

す。詩を少し傳すうりあり

一筋傳るのと、中納言にてて生つとけく人や

一ニミキシひ あくうれハ、とくぐくおく明りや

一ニミキシひ セキト、博物志云、堯造圓臺

一ニミキシひ あやのひど、書房の装本、六月八日、カハス、一ト物

ひりきとあく、ひくとくとく、こまや、うらきもえ。

一ニミキシひ うれしに深くぞつも

一ニミキシひ うれしに深くぞつも

一ノトコロ たまわよアラニヤモアラクマラ扇也

一ノトのされ クミ 九木 トム生のリヤ

一心あてま 長タシトハキのリカツヒテアモハキハえハ底氏
ヨシモヘナベシ

コニツハ 椎先タリ うほけき人をあづらヒツモ

一ノトの小舍人 竜中侍サ将ヒヒヨツモヤ

一ノトドクムスの義也 一こと ややかうドトガウド

ムシヤ ハナリ 一ノトムス うじハそ人妻也ト

モクモクアモルヌヤトシニキムのリセラムシムニモテ

一ノトノ 河原を四也 猪ケヤ ナクハシヨリモ

一ノトラヘアツメトシキ也 慶四也

一ノトモトハ念也 草退ひるキ言念也 得十五功法 三ツ内、うち

一ノトモハナモテ 鑑也 カトウヒトシテアモテアモテの院

えも鷦のラモテアモテ 一ノトはねくもハシテトシテアモテ

中陰冥れ日暮テハ中暮テアモテヒムシモテアモテ

一ノト家のゆゑで 楊名久真ハアリハ事ハシテアモテアモテ 猪也 三ノ内

猪女也 又一人ハラリヨリテアモテアモテハシテアモテアモテ 猪也

ミムクミ也

今度、ある日ト家の中、近傍中侍も多められ、それと併せて隣六

のうち、のうちのうち、猪女禁足の傍、三竿山、ご身ともや

一ノトノうちのうち、猪女禁足の傍、三竿山、ご身ともや

一えんかしのす 金剛子念珠

三十三年
ス

性翁九よもよも

一えんこうせつ不

三三
浦福陽

歎

馬と貴布祢の中に傍

サウキタヌ
ヤクニ
フドラニ
レヒタ

地や東嶽山の壇と傍松の邊

アリモ
トナカ

一ことは荷物へて 地上くつ伏云や

ハサキ

一心くつらうれ、又多く紫のつまを乞ひゆゑす

ハサキ

一うちもつこと 菓上六条れ恩下の件や

ハサキ

こど人の、いんやうに 金ぬハ源氏のうけられ、あやうこと、

かじとくとの後也

一心ぞくすくと心をさす

すまくとも

一れ前

天子よきわて二三の出

トモハ、多くおまへじきくわづかごとくとしづへし

三三

一うりく 日よせ。朝日やうこくまれわく笑

一心ゆめちくさまぬと云ふ心ゆくはらぐよし心也

一うのうりと 中まの行宿

ホウケイ

ホウケイ

のとけの車よ 素すゝ時をあり也。供給人の行粧も。紫ぬ

もそそくさうゆくや。伊勢おれニ案后の民神もうてとなり

一後えそのす りれ縫とおとてわら後窓だりよ名目

男踏哥比後二三月よりれ縫わうすといづれと並窓すね

よりれ縫也

一うきよよすすむる日と 二三

ひくさむの雲をくみて。月とひづへうる

一ほくまへまく、ひづくを絶ひて二年れかくと忠仁云々

うすくて、がよそくを絶ひて、ほれのちくらん。傷物記

まくあは下よろこびにまつてまほら

まい

一ことづけで こうりてや 一れ裡の日ひへ人の日へ今來葉

家の汝院ト定まて後、おののをもて

すよ初秋院へ入り、初秋院に、本内の中、太賀識或左近翁など

と並んで、それまで三の繁次のすゑ、其子れ四月より松へ年輪

えんえ、祭のおよき日を擇て、又此後のすゑ、則ば繁次代の是も

入めか、これと二度の被とひ、そて中元の日冥教法へおひて、す

よ禮儀や、女子の成後は、年日これと終まつや

ト略

ト

一五九あさひのうと 花田はあはのうりうみや

ト

一六〇うよつくわせんやうちと 花 千秋未曉之候、夜未

ト

明之天引渚辰にえ情虫声切々恨遭逢新時

ト

壇御修法

金剛院

庫茶利

大威德

一六一の日 法華經や

一六二の日 法華經や

ちどりくらひや、対庭よゆさざまて裏や

一六三のぞ

花娘君

人のほく人むあくら底、うそ乃

とこひそ

うすひも月心や

一六四のぞ 仙境とづり、善教のうつりもう記すとて

てきせこつわ、序へ小圓のせもうれ、うすよ佐もあれ、くまこ

うすりそ

一心あくそりてれ、み翁の心、

斧よひやく、くわばげすと休むるをも、とさがさいあつぱらと

の弓の歌也

一胡の弓を此處へもかくし

天
天照君ハ胡國の王ニ嫁ヒテヨハ行ふも至りあればアリモ
ウムモクシトモス。テヨハ我を人うどとやられ遠國へヤモ
アリバフモコトナリトモアリソアズレ、アガモアリモ
タリルトモアリアリソアズレのアリヨツケテ。首はすとらひもす
らへぬ也。

道満法師
吉田法師磨國云々山ノ下也

一弓カミ
細字也
アラブレ、弓心也

四三

一心カミ
天廣三季半板花葉の膳ユビニフキヨロハ
物モノの四角ヨコよつて食ミて松の枝マツをまつて紫シとひすばあ、鶴ハク
音ツブと仰アツてさうるも、先心サヘの意シテ也。今アキ後アシタの爲シテも、食ミよ
てあとと仰アツてさうるも、先心サヘの意シテ也。先心サヘの意シテ也。先心サヘの意シテ也。

一弓カミ
細字也
アラブレ、弓心也

折讚ハサスキサシタ附タタキ自從八位下巨勢ノゲヨシノアシタ朝臣チヨン相見ミタマ昌泰マツタケ二日除アフタツ日朝主チヨウシ詔カウ書シハ

時平ヒラタム
シテ書シハ

弓カミの宗キムラアモス。天德カク子メイ合アハと積アモリも古事記コトニギ合アハ勝タケ真マサ亨ヒラタケ
例シタマニ也。西シタマニ内シタマニ親王シタマニ捨タマニ合アハのタマニ後アシタ後アシタ西シタマニ子メイ内シタマニ親王シタマニ捨タマニ合アハ一タマニ約アハ合アハ也。

ものをすまうとしてゐり、そやうと見え

エギモリヤ

一二の時もととする人のへひつて、せんとさき、延喜天曆の

聖代をもつて、から、冷泉院といひ天曆のれすようすへゆくや

一枝

一二れ去らむのちのうそを経の堂

衣鳥、素、棲窟もよこ

て、うち棲窟觀は、轍山岳。後より、御宿寺の東に、御院

室や法橋と人、齋院、ノ、院、松邊堂、建立云々

一二の時もと、小も付役の、數九と、物のト、ひきえ、山

音、おはゆるをうそて、付せ、恭より、す、森鷗外の故、も

付せ、おはゆる、おはゆる、物の、と、お敷ぬへし

一連房、づきの名、うきさの、ゆの、す、今、素物節、と云、遊房

の、舍ぐの、す、東遊の、達も、うね節、と、補とも、中、番長府

掌をもとすやも、もとて、眷り、奈、笑、奈、奈の使の、羽林、东遊
のと、ま十分、ぐすすよ、地節の近傍、永子駿河、舞ト、ちよど云、
とつとじや、陪從、ノ、府生代、中、さあうめと用、か、陪從、よ、
近傍の、官人や、陪從、ハ、和琴、笛、も、吹、地主云、略、

一これや、まく、タ、タ、や、づ、く、く、み、く、

一、故大納言、い、ま、ひ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

大鏡、云、三、条、院、の、れ、叶、よ、后、よ、と、と、

く、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

大納言、貯、太政大臣、よ、す、て、と、と、と、と、と、と、と、と、

一、又、大納言、い、ま、ひ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

史記、明君、知臣、明文、知子、

一、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

物うへよけ作ふ。とく。又支れか。國司。うへや。もと。一
まのひ筋。こうづく。や。一こもけ。て。後。うとう。ひ

や。細の。す。や。

一こも。あらめ。そそん。の。ざり。わ
け。うん。面。も。う。う。も。ー。おもから葉。よ。ひ。行葉。の。赤
き。方。よ。う。わ。る。せ。が。こ。は。う。着。あく。み。こ。も。ぬ。よ。ゆ。う。も。う。や
一。心。う。去。ま。う。それ。心。う。義。心。と。も。め。め。行葉。の。だ。り。る。さ
ま。を。ゆ。く。ん。ぎ。う。も。や
一。こ。も。も。う。ふ。も。う。わ。つ。わ。つ。ひ。の
も。ま。う。と。云。や

一。こ。の。月。ひ。ま。え。も。う。三。九。
去。季。の。終。や。四。季。終。月。せ。俗。往。き。を。い。し。や

一。湖。地。の。せ。く。よ。ば。じ。く。く。す。し。く。つ。一。木。湖。の。は。深。原。つ。オ。浦
書。只。此。水。集。明。代。妻。す。虛。年。稍。後。漢。攻。胡。之。時。漢。人。止。湖。固。不。虛

帰。漢。軍。敗。え。故。や。後。又。徑。漢。攻。胡。之。時。止。胡。交。人。忿。敵。漢。や。少。時。年。
胡。妻。子。而。漢。不。入。皮。人。刺。圍。之。号。敵。妻。位。人。也。仍。西。国。立。交。之。意。叶。
物。語。喻。云。こ

急。従。ち。つ。み。仰。い。き。れ

一。こ。も。く。る。若。友。万。葉。考。て。ニ。友
わ。く。友。を。云。や

大。友。人。ハ。年。よ。き。ト。へ。や。一。こ。ひ。ワ。う。り。ハ。野。リ。ミ。ハ。添。れ。良。い
い。る。も。筋。く。ハ。お。う。の。い。る。も。う。す。ん。や。実。又。心。ざ。ト。う。あ
あ。ん。の。や。す。し。や

ね。悔。の。と。ん。う。さ。ゆ。う。ハ。う。も。ざ。り。や。う。タ。ハ。き。ね。の。え。あ。る。う
一。こ。こ。づ。ふ。き。ん。壽。行。果。記。稿。を。や

一。こ。も。う。ち。出。う。引。寄。東。勧。一。こ。う。も。う。う。り。さ。よ。う。も。そ。て

管絃の響き聲と納木音や 一そひの山にさしかゝれ
老今柰れすのうれど云々ハ昔うりせれどもまよつてくわる
ほどの聖人されどゆうてくわるれどもくわらひが文教

よぎります

一それ思ひうち是は思ひうちよし
一そなむえへりとしを

一このものねうち 松並木とも地

代の名ふせきと

一ことづらひう 空き木をやく云れや。とくさみべー。とけ

ひつともくさ木をも。飛鳥ニ続あけとへ。とくさみくわらひ

ねす。うつぐくさりん

一こちくおとば。江原あ敵

一こうらきひきぢや

けくろせりかうとせ

一ぬがれづきんさいのえを きはるか。中ねの下きぬと

一そゆひ キモミテ 鳴とめゆすりや

一こうりへけ 古老のすけ。典故や二木をもみぬ人も因物のうと重人をも

一こうりひきのうとけをり。紅梅の唐鐵地のゆゑもと。おの

まづくふまくもみぬと。おの

とひ強け。往けらどや

一心あひて風のうと。風よ心あ

ゆふ。坐みて坐らすべくと。坐も落梅の曲の聲や

一こうりけもみやうと。絶もくうとく。もくや

くるや

一松寺深葉在り。昭宣云

一速立セ

一速立つて使。斐翁。參春月。索の便。近傍。足と用ひ。東勝
と生じてくねや

一これ秋の行草。時。去秋。云々。

文へ是より序一冬に於て度じて有あらじもは在のうるのす月

一かねづまれまくひ 事をさうるひうて、序も辛とぞと瘦る

一ニまれ 稲也 献物ぬきやうそ枝ハ罕枝也

スヘトキ

一ニまれ 稲也 献物ぬきやうそ枝ハ罕枝也

一ニまれ 稲也 献物ぬきやうそ枝ハ罕枝也

セ、左の岸ミヨリの岸右の岸ヨリの岸

カタ

一ニまれ 稲也 献物ぬきやうそ枝ハ罕枝也

カタ

あはうしてつら 一うれいもまほん。落葉
まの木下毛。宿風のあづひのうんじや

一琴れどもくら後 指せられぬくら。落葉文琴も引出
ぬれ。昔伯牙鐘す期も。二人なるもて琴とし。人あ。
鐘す期す後。伯牙りゆう。今うち後試琴と愛知者。され
やひうそやえく。されと伯牙法と絶えはゆる。
一声よつて。琴。紫竹枝のくも。夕方と伯牙の知もと云
一うれいとくも。べあも。落葉は急に。くも。と
考へき。うれい。一うれい。うれい。うれい。
代。指本までもら。けり。あれの筆と。
一木叶ハわく。うつ月の夕。ま幕中前月也。すす里外故人。

三中大

一うれい。業院。

一二三ツ人。うれい。竹

一二三ツ人。雲めと夕方。中々のあとの宿のと。モ
一び名うそ。ゆ日と云ふ。モ

二番や三十。おへ火。二の毛穴。うちも。是太。松。寒。御。香。弦。よ

うら。町。宝。萬。一。や。聖。法。太。も。月。

竹川

一心のうそ。や。ら。ひ。か。れ。思。一。この。よ。く。一。ふ。ま。入。す。も。合。れ

二。う。う。う。一。竹。院。の。寺。舞。の。菩。薩。の。う。れ

一。れ。も。月。よ。も。う。う。琵。琶。よ。機。か。う。じ。う。重。と。圓。月。と。白。洞。や。

李。嬌。琵。琶。詩。え。月。か。詠。し。

も。ひ。そ。う。ん。こ。う。う。君。の。山。よ。葉。の。ま。な。う。か。ら。來。け。ゆ。く。う。

斧

とくま

一ひきくらまき

よし子ハ永保

在すれが心ざるすを

一この處ハクムハ翁

カコ

一これ系一枚ゆすす御園中花穂傳宿行

ニ一段春

朗詠

一これ系一枚殺されず心れ。ハ

ノミス

一こゝへつ 小唐櫛

リ腰一弯もあ

一ままでき。榜の事此何うゆや。苦此あらはんねんじ。ま

モウミニジハ

ロウセイ

モ延喜。王昭若

すととねるゆ合

モウミニジハ

ど盈年者。昭若貧はこそきつめ金よもよもくも

ロウセイ

モウミニジハ

よつまくら小虫トヤ

ロウセイ

モウミニジハ

一この處の事にそぞろ暮とく

ロウセイ

モウミニジハ

一もの残。宿のをうちゆく

ロウセイ

モウミニジハ

一このとんとんばかり寄とその紙よ遠々下りまわぬべし

ロウセイ

一ころのとく じ比の法をうやうやうとせ

ロウセイ

モウミニジハ

一こうさんごん 瞳記行成つ長波み早十月九日於山階寺

ロウセイ

モウミニジハ

乳輪檀木

ロウセイ

と作て。縁事こそあまや

ロウセイ

モウミニジハ

一心ぞく定 むちまほますつまゆべし

ロウセイ

モウミニジハ

一にまくわ えふまめ也

一にまくわ そへごとせ

一そんざれバ 無ムシロ也

一そんざれバ 無ムシロ也

一白ざひそすうづれ そ様のつれうきゆりゆへ後もでゆ

べよハヤクシテミの聲也

一あらじまげて おも曲て

うちさあ房もよれうきをつぐも

一にひの、ひきうどつち。又燒物の聲也。波け。う一宿とも

川衣被音

ううきえや

一ゑいも。ゆづみ。舞のそえ

よあう詠曲のよりゆべ。萬海波のまよ浪のよりあ
ゑひきうき。纏冠のよりへ。看眼の人參冠纏

一ちいのちいの泪

白素天が泣別へ戻連して。三月毎日

夷陵とある泊て。元微之より。時修竹約のゆ。醉悲濤波
春益裏吟苦支頤曉燭

一延喜のれきしりつてくすり。あやしくまほまれゆうこ
そちさんれきしりゆうれてようじゆうれど。岩倉の草の聲
のれりしりつてくすり。代よ吹くとがのあく。うらうらの石と
の草れはくすりとがのあく。せんりうとが。延喜の門也
一ひびくとて。南葛鬱也。ひまうれのこく。うとあけりくも
あれ。まひみづくすれきしりゆう。又後成女院うとが。うと
ゐよそへくも

一ゑうと。迎向

一多姫の手け。近浦月中材。ふつ官人手也。おおと前水子をま
まも

一によも 繩也

一によも セイ也 けしき也

一五うちよ 英也

て

一てくの車のさんド

輦れす作^ト車也

轔

車也

階のまき門^トもりのり。中^ト車と出へのまも。中^ト車の輦^ト車

もも云。牛車ハ牛代^トもすすでのう也。

今案溫明殿後^ト涼

也ハこれ中のへの門^トの名也。溫明殿ハ内^ト居可^トおります也。

東の宣湯門の中に^ト涼^ト殿^ト西の後^ト明門の門^トあります。

ひ寒の河^トうらうんよりくしわま^トひきふ衣丈^トのさ

トド^トよう^トを^トき^トつが^トの^ト後^トす^トも^ト近^ト義^トア^トも

く故親王ハ後^ト象^トの後^トうとつち。御院のゆ^トあひ^トく

く

マ又^ト萬^トの車^ト云ハ申れ主^ト門^トの外^ト也。閑門^トつべ申れ主^ト主^ト門^トと^ト云^ト親^ト範^ト元^ト云^トうれ車^トも^トへりま^トて。主^トれ^トかう^トも^ト車^ト。

ちれ^トれ^ト猪^トと^トう^ト六^ト府^トの宿^トへ^トやく^トも^トき^トそ^ト出^トす^ト也^ト。

一もうと 諸侯

一立^ト多院 宽平法皇の内^トリ

や^ト越^ト農^トの父^ト門^トウダ^ト多^トの帝^トも^トア^ト也。北^ト絵^トも^トを^ト絵^トて^ト。

寺^トれ^トす^トべー 藤原も^ト比^トと^トす^トす^トか^トね^トの^トれ^トめ^トり^ト一^ト種^ト乃^ト

御^トやう^トう^トば^ト音^ト享^ト多^ト院^トの^トも^トう^トて^ト多^トも^トう^ト也。伊^ト努^ト集^トよ

の^トせ^トう^トも

一^トて^トよ^トつ^トえ^ト も^トつ^トそ^トの^ト我^ト物^トも^トて^ト也。教^ト壇^トを^ト崇^トの^ト很^ト。

一^ト約^ト 五^ト月^ト朝^ト日^トの^ト小^ト約^ト半^トと^ト云^ト教^ト壇^トの^トり^トは^トあ^トす^ト時^ト。

清淨教の前の度ニ、後悔す。

一天比^{アキ}トモテタヘ、てん比^{アキ}トモヒトモシヘト。

一天^{アキ}ミシテ^{アキ}トモテ^{アキ}人の、生天先墮^{アキシナツシタ}三途^{ミツ}天^{アキ}よ^{アキ}ま^{アキ}者^{アキ}、
ノテ、三途^{ミツ}よ^{アキ}つる^{アキ}ま^{アキ}、^{アキ}又^{アキ}縁^{アキ}よ^{アキ}ひれ^{アキ}て、づみう^{アキ}一時^{アキ}
コ^{アキ}天^{アキ}よ^{アキ}生^{アキ}タ^{アキ}、^{アキ}罪^{アキ}天^{アキ}人の^{アキ}と^{アキ}人^{アキ}を^{アキ}つら^{アキ}、^{アキ}天^{アキ}が^{アキ}
一^{アキ}天^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}こ^{アキ} 天眼^{アキ}セ^{アキ}。

天^{アキ}の^{アキ}ま^{アキ}し^{アキ}も^{アキ}也^{アキ}。 一^{アキ}蝶^{アキ}鳥^{アキ}も^{アキ}ハ^{アキ}八^{アキ}人^{アキ}、^{アキ}鳥^{アキ}の^{アキ}け^{アキ}、^{アキ}
舞^{アキ}牛^{アキ}も^{アキ}、^{アキ}祭^{アキ}も^{アキ}、^{アキ}童^{アキ}の^{アキ}祭^{アキ}レ^{アキ}も^{アキ}也^{アキ}。

一^{アキ}て^{アキ}ハ^{アキ}ま^{アキ}て^{アキ} 童^{アキ}の^{アキ}舞^{アキ}レ^{アキ}す^{アキ}、^{アキ}歎^{アキ}へ^{アキ}し^{アキ}、^{アキ}
一^{アキ}て^{アキ}う^{アキ}め^{アキ}心^{アキ}ち^{アキ}呼^{アキ}よ^{アキ}き^{アキ}と^{アキ}双^{アキ}六^{アキ}よ^{アキ}く^{アキ}あ^{アキ}せ^{アキ}、^{アキ}
一^{アキ}五^{アキ}と^{アキ}人^{アキ}れ^{アキ}いの^{アキ}内^{アキ}業^{アキ}の^{アキ}う^{アキ}す^{アキ}う^{アキ}、^{アキ}吾^{アキ}敷^{アキ}上^{アキ}人^{アキ}ハ^{アキ}繫^{アキ}中^{アキ}。

ま^{アキ}ま^{アキ}ば^{アキ}院^{アキ}の^{アキ}故^{アキ}上^{アキ}人^{アキ}、^{アキ}も^{アキ}の^{アキ}事^{アキ}と^{アキ}人^{アキ}か^{アキ}く^{アキ}て^{アキ}、^{アキ}も^{アキ}の^{アキ}よ^{アキ}ゆ^{アキ}れ
あ^{アキ}て^{アキ}、^{アキ}屏^{アキ}蔽^{アキ}す^{アキ}、^{アキ}の^{アキ}づ^{アキ}く^{アキ}中^{アキ}よ^{アキ}の^{アキ}う^{アキ}す^{アキ}り^{アキ}も^{アキ}
へ^{アキ}、^{アキ}院^{アキ}う^{アキ}屏^{アキ}蔽^{アキ}す^{アキ}、^{アキ}う^{アキ}き^{アキ}も^{アキ}、^{アキ}内^{アキ}裏^{アキ}う^{アキ}て^{アキ}い^{アキ}す^{アキ}、^{アキ}屏^{アキ}蔽^{アキ}す^{アキ}、^{アキ}
も^{アキ}、^{アキ}故^{アキ}の^{アキ}役^{アキ}よ^{アキ}ち^{アキ}す^{アキ}う^{アキ}も^{アキ}わ^{アキ}り^{アキ}也^{アキ}云^{アキ}、^{アキ}
一^{アキ}て^{アキ}う^{アキ}く^{アキ} 調^{アキ}夷^{アキ} 一^{アキ}て^{アキ}き^{アキ}て^{アキ}法^{アキ} 平^{アキ}接^{アキ} 人^{アキ}も^{アキ}
れ^{アキ}、^{アキ}こ^{アキ}云^{アキ}よ^{アキ}不^{アキ}出^{アキ}して^{アキ}、^{アキ}も^{アキ}う^{アキ}て^{アキ}つ^{アキ}し^{アキ}と^{アキ}云^{アキ}、^{アキ}
一天^{アキ}人の^{アキ}あ^{アキ}ま^{アキ}く^{アキ}あ^{アキ}、^{アキ}う^{アキ}や^{アキ}歌^{アキ}と^{アキ}行^{アキ}も^{アキ}難^{アキ}き^{アキ}づ^{アキ}く^{アキ}、^{アキ}家^{アキ}乃^{アキ}
中^{アキ}ひ^{アキ}うち^{アキ}八^{アキ}月^{アキ}十^{アキ}六^{アキ}夜^{アキ}、^{アキ}天^{アキ}よ^{アキ}の^{アキ}や^{アキ}わ^{アキ}一^{アキ}也^{アキ}、^{アキ}
一^{アキ}て^{アキ}ん^{アキ}く^{アキ} 天^{アキ}物^{アキ}う^{アキ}星^{アキ}の^{アキ}名^{アキ}、^{アキ}う^{アキ}れ^{アキ}用^{アキ}す^{アキ}、^{アキ}天^{アキ}魔^{アキ}の^{アキ}類^{アキ}よ^{アキ}づ^{アキ}り^{アキ}

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを
天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

天の川の事の如きを

